

今治明德短期大学 研究紀要

第35集

目次

社会人学生に対する介護福祉士養成教育における概念整理と課題河内康文.....	1
裸麦を素材とした製菓の創作武田秀敏.....	11
一般教育科目「地域文化論（歩き遍路体験学習）」を振り返って市川ひろみ、桑原拓夫、八塚節也、佐伯羊一、徳永英幸、 原映子、阿部清子、伊藤敏乃、渡邊陽子、滝口伸一、高井秀和.....	21
報告・資料	
開かれた図書館活動 —小さな短期大学図書館の挑戦—土岐敦子.....	31

平成24年3月

今治明德短期大学

社会人学生に対する介護福祉士養成教育における概念整理と課題

河内 康文

The concept of adult education in care workers training college

Yasufumi Kouchi

1. 研究目的

近年の介護福祉士養成教育の領域においては、社会人学生が増加している。その背景として、経済不況や経済のグローバル化による雇用情勢の悪化という社会情勢があることは明白であろう。2009年度からは、離職失業者の増加と介護人材の不足という現状の課題を同時に打開することを目的として、失業者・離職者を対象に緊急雇用創出事業における「離職者訓練制度」での介護人材養成が創設された（厚生労働省 2009）。さらには、介護・福祉分野を今後雇用が増加する成長分野としてとらえた重点分野雇用創出事業における「働きながら資格をとる」介護雇用プログラムが創出されている（厚生労働省 2009）。

この結果、離職者訓練制度における介護福祉士養成コース（2年課程）では、2009・2010年度の2年間で5,825人が受講している（日本介護福祉士養成施設協会2011: 4）。また、介護雇用プログラムにおける介護福祉士養成コース（2年課程）では、991人が受講している（日本介護福祉士養成施設協会2011: 4）。このことにより、介護福祉士養成施設においては、これまでの高等学校卒業後間もない学生が入学していた状況から、多数の社会人学生が入学してくることになった。

このような動向の中で、介護福祉士養成施設協会は、社会人学生が増加することによる介護福祉士養成教育の数量的な研究をしている（日本介護福祉士養成施設協会2011）。ただ、これら社会人学生をいかに教育していくのかという検討は十分になされていない。このことは、介護福祉士養成教育の領域のみならず、他領域においても成人教育の方法論すら十分な議論がなされていない現状にある（米岡 2011）。もちろん、介護福祉士教育領域においては、社会人入学生が増加した現象は近年の動向であるゆえ踏み込んだ議論が十分にできなかった事情はあるだろう。

しかしながら、介護福祉士領域における社会人教育を検討することは、質の高い介護福祉士を養成する観点からも意義があると思われる。そこで、まずは既存の研究に基づき、社会人学生に対する教育に関する背景や議論をレビューしてみる。その上で介護福祉教育領域の社会人学生に対する教育も検討してみたい。さらに、介護福祉教育実践の中に社会人教育を体系的に位置づけて、その具体的な方法論や理論・実践上の新たな課題を抽出して検討していくことが本研究の目的である。

2. 戦後における社会人に対する教育の動向

戦後まもない日本における社会人に対する教育の法的位置づけは、1949年に施行された

社会教育法がある。社会教育法の第2条において社会教育は、「学校教育法に基づき、学校の教育課程として行われる教育活動を除き、主として青少年及び成人に対して行われる組織的な教育活動（体育及びレクリエーションの活動を含む）」と規定された。この規定を踏まえると、社会教育は、学校教育以外の幅広い教育活動ととらえることができる。しかしながら、近年は、学校教育においても社会人に対する教育が実際に実施されている。そのような背景もあって、今日定着しつつある概念として生涯学習がある。

そもそも生涯学習は、1965年に国連の教育機関であるユネスコの成人教育局長のP. ラングランが生涯教育という理念を提唱したことが契機である（森 1997: 2）。その理念が意味するところは、生涯教育が統合された全体概念ということである（森 1997: 3）。それは、単に社会教育を意味するのではなく、人が生まれてからの教育に始まり、学校教育、企業内教育、社会教育などを統合した教育全体という意味である。つまり、すべて国民が生涯にわたり実践すべき教育とも理解できよう。このユネスコの提言から全世界的に生涯学習の考え方は、広がっていくことになる（藤井 1997: 16）。その背景として、藤井は、P. ラングランの主張を踏まえながら以下のように整理している（藤井 1997: 18）。すなわち、（1）社会変化の加速化、（2）人口の急増と寿命の急激な伸び、（3）科学知識・技術の進歩とその急速な陳腐化、（4）恒常的な政治構造の変動（革命、戦争、体制変革）と指導者の不足、（5）マス・メディアの発達と情報量の増加、（6）自由時間の増大、ならびに仕事と余暇の分離、（7）生活様式や人生パターンの変化および人間関係の動揺（男女・夫婦・親子・老若・貧富・社会的上下関係など）、（8）精神と肉体の不統一ならびに性の不相応な商品化、（9）イデオロギーの危機（価値観の多様化と信条の脆弱化）、である。

以上のような、社会のめまぐるしい変化に対応していくためには、個人が軸を持つ必要があり、その軸を支えるための新しい教育が絶えず必要になってくるという。このように、個人の資質や能力向上という観点ではなく、社会の政治的、文化的、経済的などあらゆる要因の変化に対していかにスムーズに適応していくかという観点から生涯学習を捉えることもできるであろう。

ところで、日本においては、1971（昭和46）年に社会教育審議会答申「急激な社会構造の変化に対処する社会教育の在り方について」が社会教育を生涯教育の観点から位置づけ、学校教育を含む概念としてとらえるものとして提出されている。具体的には、答申中の留意事項の第一に「今後、生涯教育の観点に立って、学校教育を含めた教育の全体計画を立案することが必要となってくるが、その中において社会教育を正しく位置づけるとともに、生涯教育において社会教育が今後果たすべき役割の重要性に鑑み、社会教育行政の施策の充実展開を図るべきこと」と提言されている。その後、1987年に臨時教育審議会第四次答申においては、生涯教育から生涯学習という用語が主流として使用されている。その理由として答申では、生涯教育というと上から強制されるような印象を受けるのに対し、生涯学習というと自発的に学習するという主体性が強調されるからとある。さて、社会教育と生涯学習の概念整理としては、前者は学校教育を含まず、後者は、学校教育を含む概念として大枠は整理できる。しかしながら、両概念は、大人と子どもを包括した概念になっている。そこで大人の教育をいかに考えていくのかという学問に成人教育があるので、次いでレビューしていきたい。

3. 成人に対する教育論

成人教育は、欧米諸国を中心に展開されてきた理論および実践である（渡邊 2004）。成人に対する教育の源流は、1926年に子どもに対する教育（pedagogy）に対して、成人教育（andragogy）という用語を記したアメリカの E. リンデマンとされる（渡邊 2004）。E. リンデマンは、成人教育の特徴としては、（1）非職業教育的なものであること、（2）教科ではなく状況を通じてアプローチされたものであること、（3）学習者の経験に資源を求めるものであること、を挙げている（Lindeman 1926=1996: 113-28）。

E. リンデマンを受け継ぐ形で成人教育を学問として検討し始めたのは、アメリカの M. ノールズである。（渡邊 2004）。M. ノールズは、以下のように成人教育の特徴を提起した。すなわち、（1）人間は成熟するにつれて、その自己概念が依存的なものから、自己決定的なものに変化する、（2）人間は成長にしたがって多くの経験をもつ。この経験こそが、学習のための貴重な資源となる、（3）成人の学習へのレディネスは、社会的な発達課題、社会的役割を遂行しようとするところから生じる、（4）成人への学習の方向付けは、問題解決中心、課題達成中心の学習内容編成がより望ましい、（5）成人の学習への動機付けは、自尊心、自己実現などがより重要になる、である（Knowles 1980=2002: 554）。

また、池田は（池田 1997）、M. ノールズの主張を整理しつつ、子どもに対する教育と成人教育の特徴を記している（表-1）。

表-1 子どもに対する教育と成人教育の特徴

子どもに対する教育（pedagogy）	成人教育（andragogy）
○学習は依存的である。 ○教師は、学習に関して、強い責任をもつよう社会から期待されている。 ○学習者（子ども）の経験は、（未成熟ゆえに）あまり価値を置かれない。 ○先行世代の専門家の経験は最も多く利用される。 ○教育の基本的技法は、伝達的方法（講義・教材の提示）である。 ○同年齢の者は、同じ内容を学ぶ必要がある。 ○カリキュラムは、標準的であり、画一的である。 ○教育とは、前記の通り整備され与えられたカリキュラム（教科内容）をこなす獲得するプロセスである。 ○その獲得する教育（教科）内容は、いま現在ではなく、もう少し後になって役立つものである。 ○カリキュラムは、教科の論理（古代から現代へ、単純から複雑へ）に従って組織化されている。 ○学習を方向づけるものは、教科中心である。	○学習者の自己主導性の増大 ○豊かな学習資源としての経験の蓄積 ○教育の基本的技法は経験的手法（実験、討論、問題解決事例学習、シミュレーション法、フィールド経験） ○学習者は自らの学習課題「知への欲求」を発見する。教育者（学習援助者）は、その発見を援助し、必要な道具・手法を提供する。 ○学習プログラムは、生活への応用へと組み立てられ、学習者の学習へのレディネスにそって順序づけられる。 ○学習者にとって教育とは、自分の可能性を十分開くような力の高まりを開発するプロセスである。 ○得られた知識や技能は、今日に続く明日をより効果的に生きるために応用される。 ○学習経験は能力開発として組織化される。 ○学習の方向づけは、問題解決中心である。

出典：池田祥子（1997）「アンドラゴジー」森隆夫、耳塚寛明、藤井佐和子編著『生涯学習の扉』、ぎょうせい、pp. 103-104. の内容を筆者が表にして整理したもの。

さて、E. リンデマンと M. ノールズの整理を参考にすれば、成人教育は、子どもに対する教育のように教師が一方的に知識を伝える形式を中心とした学びではなく、成人としての経験に基づき、自らが必要と考えることを自己決定的に学ぶといえるだろう。しかしながら、成人には経験があるからこそ、固定観念で物事を捉え学びの阻害をする可能性もあると考えられる（河内 2011）。

このような成人の認識の変容に着目した理論家にアメリカの J. メジローがいる。永井の見解を参考にすれば、J. メジローは、成人が経験する学習を 3 領域に整理している（永井 1989）。すなわち、（１）手段的学習、（２）対話的学習、（３）自己省察的学習、である。手段的学習とは、客体を操作・支配することにより、学習者にとって外在的な価値を習得する過程である。対話的学習とは、学習者の置かれた関係性における間主観的な価値基準構築の過程である。自己省察的学習とは、歴史的・社会的存在として自己を対象化することによる学習者自身の価値再編の過程である。このなかで、J. メジローは、成人教育において手段的学習に偏重していることを批判する。この批判の意味は、既存の成人教育が適応のための学習に偏っていることに対する問題提起という。J. メジローの理論で重視している点は、成人を適応させる教育ではなく、成人の思考や態度の方法を決定している解釈・認識の枠組み（意味パースペクティブ）を問い直し変化していくことにある（永井 1991）。

また、常業－布施は、J. メジローの理論的背景にある成人に対する認識について指摘している。J. メジローは、成人教育の目標を、成人の自律性の発達や自律的な意思決定能力の発達の促進であると考えている。さらには、メジローの理論の底流には、自律的志向や理性的な意思決定を成人にふさわしい性質と見なす成人観や、成人は他者に依存したり他者からコントロールされたりすることなく、自らの人生を自己決定していくべきとする思想、また、人間は本来理性的な存在であって、必要な理解を発展させれば自分にとっての最良の選択を行うことができるという信念が見いだせるということを指摘している（常業－布施 2004）。

J. メジローの理論を踏まえて、アメリカの P. クラントンは、意識変容の学習理論を提唱している（Cranton 1992=1999; Cranton 1996=2004: 139）。その理論の枠組みは、子どもの学びは形をつくっていくことに対して、大人の学びは形を変えて変容していくことにある。すなわち、成人の学習は、新しい知識を獲得し、自分の現在の前提、価値観を問い直すことが、意識変容の学習であるとしている。その過程にある批判的ふり返りが、意識変容の学習の中心となるプロセスであると主張されている。批判的ふり返りとは、徹底的に自己の実践を問うことで、自己の無意識・半意識的であった前提や価値観を明らかにし、吟味し、妥当であるかどうかを評価するというものであり、単なるふり返りや否定的ふり返りとは異なると指摘されている。

さらに、P. クラントンは、なぜそう考えたのか、なぜその行動を行うのか、なぜ変える必要があるのか、というように考えを問い直すことが意識変容を促し、結果として専門家や教師の力量形成に繋がるという考え方を紹介している（Cranton 1996=2004: 120）。批判的ふり返りの具体的な方策としては、（１）前提を明確に述べる、（２）前提の源と結果を確定する、（３）批判的な問い直し、（４）代わりとなるものを想像する、を紹介している。また、批判的に問い直す作業に取り組むときは、脅迫するような方法で問い直さな

いよう注意を払わなければならないと指摘している。また、前提を明確に述べるための具体的方法として、P. クラントンは、以下のような方法をあげている。すなわち、(1) 実践についてのジャーナルや自伝、自分の実践の哲学について書き、同僚や友人に説明すること、(2) 自分の実践を記録したビデオを分析し、他人に説明する、である。

以上の研究は、すべてにおいて一致した見解を示しているわけではないが、いくつかの類似点や共通点を見出すことができる。たとえば、成人が有するこれまでの経験を尊重したり、活用したりすることが挙げられる。また、それら成人の経験をベースにした成人による自己決定の重要性も成人教育を考えていく上での鍵となるだろう。さらに、マクロの視点からは、成人教育を捉える潮流には、大きな流れとして教育者が学習者に対して超越的に知識を与える教育から、教育者自らが省察しつつも学習者と相互に学習する教育へのパラダイム転換に特徴があるといえよう。

4. 介護福祉教育領域における社会人に対する教育論の検討

研究目的でも述べたように、一度社会を経験した人が介護福祉士養成施設に進学するケースが増えてきている。この動向に対する実態調査として、離職者訓練制度等の効果の検証と養成施設における人材育成効果の検証を目的に介護福祉士養成施設協会が全国的な量的調査を実施している（日本介護福祉士養成施設協会2011）。社会人が入学してくる制度自体が2009年から始まったことを鑑みても、この調査が全体を網羅したもっとも基礎的な量的調査になるだろう。ただ、量的調査ではあるものの離職者訓練制度等対象者による自由記述がある。そのデータを参考にし、成人教育の理論を踏まえつつ整理を試みたい。

まず、先述した M. ノールズによる先行研究の整理（Knowles 1980=2002:554）、すなわち (1) 人間は成熟するにつれて、その自己概念が依存的なものから、自己決定的なものに変化する、(2) 人間は成長にしたがって多くの経験をもつ。この経験こそが、学習のための貴重な資源となる、(3) 成人の学習へのレディネスは、社会的な発達課題、社会的役割を遂行しようとするところから生じる、(4) 成人への学習の方向付けは、問題解決中心、課題達成中心の学習内容編成がより望ましい、(5) 成人の学習への動機付けは、自尊心、自己実現などがより重要になる、がある。この分類に先行研究である介護福祉士養成施設調査の離職者訓練制度等対象者による自由記述データを抽出し、成人教育の観点から見た介護福祉教育の特徴として整理した（表-2）。ただし、介護福祉士養成施設による調査の自由記述データを抽出する過程で気づいたことある。それは、全てのデータが成人教育の枠組みとしてはあてはまらないということである。たとえば、入学するにあたって「とりあえずという軽い気持ち」というデータがある。つまり、データからは、成人としての学習動機としては妥当といえないであろう。このように、成人の特徴は、多様性があることは否めない。さらに、データの意味を考えると、「仕事がない」、「求人が多い」など成人という個人の資質そのものを問うよりも、個人のおかれている背景と関連しているデータが多い。したがって、介護福祉士養成施設における成人教育を考える場合には、社会との関連性も含めて考える必要があると思われる。

表－２ 介護福祉教育観点から見た社会人における特徴の一例

-
- (1) 自己決定
- 福祉施設で現場を見て進学した
 - 自分にとって必要なカリキュラムを選択したい
- (2) 経験が学習資源
- 家族の介護が必要
 - 知人が障害者になった
 - 失業により資格の必要性を感じた
 - 失業により技能のなさを痛感した
 - 社会経験により視点が多様である
 - 社会経験がコミュニケーション技術に活かせる
- (3) 社会的な課題、社会的な役割遂行
- 人の役に立ちたい
 - 平成25年には団塊の世代が高齢者になり、社会的にも介護人材が必要
 - 国家の成長産業
 - 教育を受けた介護福祉士が必要
- (4) 問題解決／課題達成中心
- 求人数が多く、就職が可能
 - 正職員として働ける
 - 介護福祉士の資格があると就職できる
 - 家族の介護のために勉強する
 - 学歴がほしい
- (5) 動機づけは自尊心、自己実現が重要
- 安定した仕事に就ける
 - 介護が必要な人に幸せになってほしい
 - 人間性を成長させ、人生を豊かにすることが出来る仕事
 - 一人でも多くの人と出会い、役に立ち、成長したい
 - 介護、福祉の分野はいろいろな道が広がりそう
 - 自分に欠けていることを学べる
 - 介護の事業展開をしたい
-

日本介護福祉士養成校協会（2011）『介護福祉士資格取得のための離職者訓練制度及び介護雇用プログラムに関する調査報告書～介護福祉士養成教育の新しい試み～』の自由記述データの内容に成人教育の特徴を踏まえ筆者が整理した。

次いで、成人の意識変容に着目して介護福祉士養成施設による調査を見てみる。すると、介護福祉士養成カリキュラム受講前後の比較において、「介護は誰にでもできる仕事である」と考える割合が減少し、「コミュニケーション能力を必要とする仕事である」、「専門的な仕事である」という割合が増加している。このことは、介護福祉士養成施設で専門的な介護の学習をし、その内容をより深く理解していると思われる。ただし、いかなる教育内容で意識変容が起こっているのかという点は、量的調査という特徴ゆえに明らかになっていない。したがって、どのような教育によって効果的な認識変容が起こるのか、あるいは起こらないのかということは、今後の研究課題になるだろう。一方で、「やりがいのある仕事である」、「社会的に尊重される仕事である」という割合が受講前後の比較において、大きな変化はない。この点は、成人には経験があるからこそ固定観念で物事を捉え、学びを阻害する可能性も考察の範囲に含めながら、いかなる要因で認識変容が起こらないのか、あるいは起こるのかという実証的な研究および考察の対象になると思われる。

5. 今後の課題

最後にこれまで述べてきたことを踏まえて、社会人学生に対する介護福祉士養成教育における概念整理と課題について考察する。

(1) 概念整理

まず、課題として指摘できるのは、概念整理を果たしていくことであろう。ここまで見てきた整理に加え、関連する用語だけでも成人教育、生涯学習、生涯教育、社会人教育、社会教育、リカレント教育など多岐に渡る。そのなかでも、比較的学問として発展しているため、本研究において主として検討してきた成人教育の概念ですら、無数の内容領域、学習提供形態、到達目標と学習者によって成り立ちなど非常に広範囲ではっきりしない実践分野であるという指摘がある (Merriam 1999=2005: 55)。

このように成人一つとってもみても多様性があり、理論および実践上の整理を困難にしているようにも思われる。たとえば、M. ノールズが指摘しているように、成人教育が成人学習者のみを特徴づけるというのではなく、教師決定型学習から学習者決定学習へとというスペクトルであり、両アプローチが子どもも成人も適応できると考えたり (Knowles 1980=2002: 38)、堀が言うように成人教育を成人の特性を生かした教育として理解し、成人教育独自の体系を構想したり (堀 1997: 75) していくことが現実的なものかもしれない。ただし、結果的に現在する研究の多くは、成人の特性を生かした教育に着目はしているものの、残念ながら導き出された結論は必ずしも一致していないというのも事実としてある。その事実を解消していくために、今後、実証研究を含めた研究をさらに推し進め、より多くの研究結果を蓄積していくことで、用語の整理も含めた成人教育の体系的な整理が必要になるであろう。

(2) 介護福祉教育領域に成人教育の概念をどのように位置づけていくのか

概念整理をしたうえで、次なる課題になるのは、介護福祉教育領域に成人教育の概念をいかに位置づけていくのか、またその意義をどのように見出していくかが問われること

になるだろう。まだまだ介護福祉領域においては、成人教育という概念自体も萌芽とすらいえない状況にあることは否めない。しかし、今後も一定数存在すると思われる成人に対する効果的な教育を考えていくことは、介護福祉士の質を高めるうえでも有効になる可能性を秘めているであろう。

また、成人教育という意味では、さらに研究を発展させて、卒後教育や現任教育、あるいは家族介護者へのアプローチなど関連領域への応用も考えられる。今後は、このような領域も視野に入れながら、介護福祉士の質の向上に対する包括的な戦略の一つとして成人教育の考え方が効果的に活用できるようにしていくべきであろう。また、同じ対人援助サービスである看護領域でいくつかの先行研究がみられる（たとえば、広瀬 2005、永池 2006）。介護教育領域と看護教育領域をすぐさま一致して見るわけにはいかないが、類似点もあり参考になる点はあるだろう。その意味では、看護教育領域の先行研究にも学びながら成人教育の概念や教育方法論を提示していくことも一つの戦略であると考えられる。

（3）介護福祉教育実践上の課題

成人教育という実践的志向の理論である以上は、この概念の可否は最終的には教育実践上の見地から評価が下されることになる。もちろん、その前提である理論上の課題が十分に克服されていない状況では、教育実践上への適応段階には至っていないことを認めざるを得ない。しかし、既に永井によって実践上の課題も指摘されている。上述した理論的課題が果たされた後の実践適用段階において直面することが想定できる課題について、永井の指摘を紹介しておきたい（永井 1991）。

その課題とは、成人教育の大きな特徴ともいえる自己決定の範囲である。成人教育は、これまで見てきたように成人の自己決定が重要である。しかしながら、介護福祉教育領域において、成人の自己決定が無制限に許容されることは考えにくい。これまで検討してきたように介護福祉教育領域における社会人学生は、介護を学びたいという経験知に基づく内的動機がある一方で、ただ単に何となく入学したという意識も考えられる。たとえば、介護福祉士養成施設協会による調査の自由データ記述にある「カルチャーセンター受講気分の人」が存在する可能性がある。この状態は、介護福祉士養成教育において放置できないと断言してもいいだろう。なぜならば、介護福祉士は国家資格であり、カリキュラムや教育すべき内容が国により規定されている。それゆえに、教育実践においても成人の自己決定に対して介入しなければならないのは明白と思われる。

もちろん成人教育の特徴である成人による自己決定も重要視しなければならないと思う。このパラドックスをかかえつつ、いかに実践できるのかという課題がある。永井の表現を借りれば、さまざま困難に満ちた「やっかいな」場になるという（永井 1991: 299）。ただ、これまで先行研究を検討するなかで、教育者による自己決定と学習者による自己決定の相互主体性を探るべく検討が、困難に満ちた場を解放する鍵を握るともいえるだろう。

文 献

- Cranton, P. (1996). *Professional Development as Transformative Learning—New Perspectives for Teachers of Adults*. San Francisco: Jossey-Bass = 入江直子, 三輪健二監訳 (2004)『おとなの学びを創る—専門職の省察的実践をめざして—』. 鳳書房.
- Cranton, P. (1992). *Working with Adult Learners*, Toronto: wall & Emerson = 入江直子, 豊田千代子, 三輪健二共訳 (1999)『おとなの学びを拓く—自己決定と意識変容を求めて—』. 鳳書房
- 藤井佐知子 (1997)「アンドラゴジー」森 隆夫, 耳塚寛明, 藤井佐和子編著『生涯学習の扉』. ぎょうせい. pp. 16-40.
- 広瀬絵里 (2005)「アンドラゴジー成人教育理論」佐藤栄子編『中範囲理論入門』. 日総研. pp. 303-310.
- 堀 薫夫 (1997)「成人の特性を活かした教育学 (アンドラゴジー) の構想」麻生 誠, 堀 薫夫編『生涯発達と生涯学習』. 放送大学教育振興会.
- 池田祥子 (1997)「アンドラゴジー」森 隆夫, 耳塚寛明, 藤井佐和子編著『生涯学習の扉』. ぎょうせい. pp. 100-112.
- Knowles, M. S. (1980). *The Modern Practice of Adult Education: From Pedagogy to Andragogy*. = 堀 薫夫, 三輪健二 監訳 (2002)『成人教育の現代的実践—ペダゴジーからアンドラゴジーへ』. 鳳書房.
- 厚生労働省 (2009)「介護分野の人材確保・育成支援事業の概要」
<http://www.mhlw.go.jp/shingi/2009/12/dl/s1211-13c.pdf>
- 河内康文 (2011)「社会人入学生に対する介護福祉士養成教育の現状と課題に関する研究—介護雇用プログラムにおける現場指導者に対するインタビュー調査の分析」,『日本介護福祉士養成施設協会創立20周年記念論文集』. 社団法人日本介護福祉士養成校協会 pp. 114-131.
- Lindeman, E. C. (1926). *The meaning of adult education*. New York: New Republic. = 堀 薫夫訳 (1996). エデュアード・リンデマンの成人教育学—アメリカ・アンドラゴジー論のルーツをさぐる『成人教育の意味』. pp. 113-128. 学文社.
- Merriam, S. B. and Caffarella, R. S. (1999), *Learning In Adulthood: A Comprehensive Guide*. 2/Edition, New Jersey: Jossey-Bass, = 立田慶祐, 三輪健二訳 (2005),『成人期の学習—理論と実践—』. 鳳書房
- 森 隆夫 (1997)「理論・理念・方法」森 隆夫, 耳塚寛明, 藤井佐和子 編著『生涯学習の扉』. ぎょうせい. pp. 1-8.
- 永池京子 (2006)「今, 看護に求められる役割と教育」『INR』No. 128. pp. 16-22.
- 永井健夫 (1991)「アメリカ, J. Mezirow の学習論をめぐって—成人の学習およびその考察における基本的視点—」, 社会教育基礎理論研究会編『叢書 生涯学習 IX 諸外国の生涯学習』. 雄松堂出版. pp. 73-113.
- 永井健夫 (1989)「認識変容としての成人の学習—J. Mezirow の学習論の検討—」東京大学教育学部紀要. 第29巻. pp. 331-339.
- 永井健夫 (1991)「認識変容としての成人の学習 (Ⅱ)—学習経験の社会的広がりの可能性—」東京大学教育学部紀要. 第31巻. pp. 291-300.
- 日本介護福祉士養成校協会 (2011)『介護福祉士資格取得のための離職者訓練制度及び介護雇用プログラムに関する調査報告書—介護福祉士養成教育の新しい試み—』

- 常葉－布施美穂（2004）「変容的学習－J. メジローの理論をめぐって－」赤尾勝己『生涯学習理論を学ぶ人のために』。世界思想社。 pp. 87－114.
- 渡邊洋子（2004）「生涯学習，社会教育，そして成人教育－学問領域としての「生涯教育学」を考える－」京都大学生涯教育学・図書館情報学研究。 vol. 3. pp. 1－6.
- 米岡裕美（2011）「日本における成人教育方法論の構造に関する一考察」京都大学生涯教育学・図書館情報学研究。 vol. 10. pp. 75－84.

（平成24年 1 月13日受理）

裸麦を素材とした製菓の創作

武 田 秀 敏

A Creative Application of Naked Barley to Sweets

Hidetoshi TAKEDA

はじめに

“貧乏人は麦を食え”は、1950年、吉田内閣の大蔵大臣であった池田勇人氏が国会で「所得に応じて、所得の少ない人は麦を多く食う、所得の多い人は米を食う・・・」と、答弁したことを新聞がこのような見出しで報じたことにより、世論から強い批判をうけたとされる¹。ここで麦とは大麦のことで、当時はひどく蔑まれていたことになる。今日、大麦は米では達成できない栄養効果を有することが明らかとなり、所得水準に関係なく受け入れられている。

大麦の食品成分を米のそれと比較して、大きく異なるのは食物繊維の含有量で、大麦（押し麦）の総食物繊維（9.6 g/100 g）は精白米（0.5 g/100 g）の約20倍量に達する²。しかも、精白米には水溶性の食物繊維が痕跡程度なのに対し、大麦は水溶性食物繊維が非水溶性の2倍近くに達する²。このような成分特性が他の穀類由来の食物繊維にない栄養効果を発揮するものと考えられる³。ちなみに、愛媛県が収穫量で全国1位（11,000トン）を占める裸麦は⁴、この大麦に分類される。

本学の製菓衛生師養成施設では、新設時からの教育方針として、地場産品を製菓及び製パンに利用する創作力の向上に努めている。この間、サトイモ⁵（武田秀敏、サトイモの多面的利用に関する研究、今治明德短期大学紀要第32集 pp21-40、平成20年3月）及び柑橘類⁶（武田秀敏、柑橘類の多面的利用に関する研究、今治明德短期大学紀要第33集 pp13-30、平成21年3月）の製菓への利用に関して試作を試みてきたが、このたびは、大麦の製菓への利用を試みたので報告しておきたい。

裸麦（大麦）の特性と加工利用の現状

1 (1) 六条大麦

大麦は穀粒の配列により二条種と六条種に、また籾の剥がれ方により皮麦と裸麦に分類される。二条種（皮麦）は粒が大きくデンプンに富むので麦芽原料となり主にビール醸造に利用される。一方、六条種は2007年度の農水省統計によれば収穫量の8割が皮麦であり、寒さに弱い裸麦の栽培は瀬戸内海沿岸に限られている。したがって、押し麦、丸麦及び米粒麦として流通している多くは六条皮麦を原料としている。ちなみに、裸麦は六条種が主流で二条種は、炊飯後褐変し易い等の理由で殆ど栽培されていなかったが、近年この形質を持たない二条裸麦の新品種が開発されている⁷。

ところで大麦は、その加工用途が小麦に比べて狭く、もっぱら粒として食用に供されて

きた。それは、粉体にして水を加えても小麦のように粘弾性に富む生地ができない、つまり粉の粒子同士が繋がらないため、単独ではパンや麺のような加工が難しいことによる。補足になるが、大麦タンパクの構成は小麦のそれと類似し、大麦はプロラミン（アルコール可溶タンパク質）に属するタンパク質であるホルデインを小麦のグリアジン（アルコール可溶タンパク質）に相当する程（35－45%）含んでいる⁸。

このような理由で従来、大麦の粉としての利用は麦こがし（別名：はったい粉、こうせん）くらいであったが、食物繊維の豊富さが注目され始めた1970年代に小麦粉を配合した大麦麺の製造が始まっている⁹。なお、全粒麦をパフ加工して製菓材料に用いた歴史ある商品としては「麦チョコ」（株式会社レーマン、埼玉県和光市）や小麦のパフ加工品「ムギムギ」（いずみ製菓株式会社、愛知県安城市）、最近では発芽大麦クッキー（豊橋糧食工業株式会社、愛知県豊橋市）などがある。「一村一品」運動や「地産地消」運動を背景に地場産品の多面的利用や付加価値化の動きが強まるなか、二条大麦を利用した「大麦ダクワーズ」（大麦工房ロア、栃木県足利市）のように、第25回全国菓子大博覧会（姫路市、2008年）で名誉総裁賞を受賞した銘菓もある。

大麦製菓の開発意図

1 パフ加工した裸麦の利用目的と意義

大麦スイーツであることを強調するには、はったい粉のような“香ばしさ”とか、むぎチョコのように麦粒の“形態”を活かす方法がある。原材料に占める麦の割合も大切で、少なすぎると大麦の特徴を出せないし、逆に多すぎると嗜好が損なわれることがある。ここでは、裸麦を用いたことが（1）一目で分かり、（2）食べやすく、（3）低カロリーな菓子を念頭に試作を始めた。

まず、大麦であることが一目で分かり、且つ食べ易くするにはパフ化が有力な方法の一つである。穀類をパフ加工した製品はポップコーンをはじめ無数にあるが、一粒ずつ食べるより一口サイズに固めた方が食べやすい。パフ加工した穀類を固めたものに「おこし」がある。おこしは、原料に140℃の砂糖密を絡めて固めたもので、油脂を使わず且つ咀嚼回数が増えるので栄養生理学的に望ましい製菓であるが、若年層には敬遠されがちで消費が伸び悩んでいる。そこで、飴の代わりにメレンゲ生地を用いてパフ加工した裸麦を焼き固めることにした。また、地元産の伊予かんでピールを作り、これのみじん切りをメレンゲ生地に加えて柑橘系の風味を付与したのが本試作品の特徴である。

2 麦味噌の製パンへの利用目的と意義

裸麦の栽培適地である瀬戸内沿岸では、これを六条皮麦同様に押し麦や米粒麦として利用する他、麦麴に加工して麦味噌醸造に利用してきた。味噌は日本食を支える重要な食品の一つであるが、花びら餅、みそあんの柏餅、味噌ゆべしなど、昔から和菓子にも利用されている。最近では、洋菓子店でも味噌を使った製品開発が盛んになっている。通常、使われるのは米味噌であるが、ここでは、地元で消費される麦味噌を使って、まず味噌あんを調整し、これを包あんした味噌あんパンの製パンを試みた。パンは菓子より食べる頻度や一度に食べる量が多いので、地元裸麦の消費拡大につながる事が期待される。

製菓材料に用いた一次加工品の調製

(1) 裸麦のパフ加工

市販裸麦の米粒麦及び押し麦（製造元；株式会社藤田精麦、愛媛県西条市）を入手し、穀類のパフ化加工業者（家田製菓株式会社；愛知県知多郡南知多町）より加工してもらい、試作に供した。

(2) いよかんピールの調整

いよかんピールの調製は、先の報告⁶に従って調製したものをを用いた。

(3) さくら味噌あんの調整

麦味噌には、玉川地域活性推進協議会より提供していただいた“さくら味噌”（越智今治農業協同組合、今治市玉川町）を用いた。商品名は今治市玉川町木地にあるさくらの名所、千疋峠のさくらに由来するといい、味噌自体にさくらが利用されている訳ではない。味噌あんの調整に際しては、名実、形態ともにさくらをイメージできるパンを意図し、塩漬けにしたさくらの葉をみじん切りにして麦味噌と一緒に白並あんに練り込み、さくらの香りを活かした味噌あんにした。材料とその配合、成形操作等についてはレシピに示した。

評 価

パフ加工した裸麦の製菓、“しまなみおこし”は、ムロヤ菓舗（愛媛県今治市）から『今治お土産スイーツコンテスト』に出展、市民による審査の結果、四国今治ゴッツォーラ（脚注）の10作品に選ばれた。出展作品を写真1に、また表1には、審査員から寄せられた寸評を示した。風味については概ね独創性を評価する印象であったが、デザイン性に欠けるとの指摘がある。製菓、特におみやげ用製菓の開発においては、風味に加えて、ネーミング、物語性、デザイン性が商品の売れ行きを支配する重要な要素であることを示している。

“さくら味噌あんパン”（写真2）は、今治市玉川町の地域活性化推進協議会から玉川特産「さくら味噌」（越智今治農業協同組合、今治市玉川町大野）を利用したスイーツの開



写真1 しまなみおこし



写真2 さくら味噌あんパン

【脚注】四国今治ゴッツォーラについて

今治商工会議所が「地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」として2010年から企画した『今治お土産スイーツコンテスト』において、市民による一次審査で入賞した作品について“四国今治ゴッツォーラ”のブランド名で販売を試みるもの。

表1 しまなみおこしに対する市民の寸評

〔積極的・肯定的コメント〕

いよかんピールの味がきいててすごくおいしかったです。
 食べやすいやわらかさでした。
 いよかんはOK、おいしい。
 ピールが意外とおいしい！
 アイディアがすごい。食感がパリパリしているので良い。いよかんのピールがうまい。
 オレンジの味はかなりおいしい。
 カンキツの風味はととてもよかった。
 かたいイメージがあるのでやわらかくてとても良い。
 カンキツの香りがよく、いくらでも食べたい。固さも良く是非つくってほしい。
 かめばかむほどいよかんの味。
 味が複雑でとてもおいしい。
 あまり食べたことのない味でした。さっぱりしておいしいです。スティック状でもいいかも？
 食感が最高。
 ピールの味が愛媛らしい。
 さっぱりしてて良い。
 いよかん風味がおいしい。
 いよかんの味がした。
 少し固いけどおいしかったです。
 ピールのおつまみに。
 めずらしいお菓子です。
 歯ごたえとカンキツの風味がとても良い。
 もう少し大きい、または2枚セット袋入りなど、量を考えた方がいいと思う。いよかんの味がとても良い。
 おもしろい
 風味よし。
 口に入れるとイヨカンの香りがほんのりしてよかった。あまさはちょうど良かったです。
 アイディアはOKです。
 こうばしいです。
 もう少しサイズを大きくして、形をキュートにしたら購入してくれると思います。
 麦のつぶの形がしっかり残っており、いかにも体に良さそう。
 香りが良かった。くせになりそう。でも嫌いな人は嫌だと思う。わたしは好きです。
 さわやかでおいしかったです。
 酸味があっておいしかったです。
 見た目はいいが、いよかんの味がしてすごくおいしい。
 味はいよかんの味がほのかにしておいしかった。
 香ばしくて美味。
 みかんの産地ならではののみかんの味がとても良いです。
 いよかんピールの香りがよくて、見た目よりも美味しい。
 イヨカンの味がよかったです。
 食感がよかった。オレンジの風味も今治らしい。
 イヨカン風味がさわやかです。麦の形そのまま使ったのはいいアイデアだと思います。
 すごくいよかんの味が口の中に広がります。
 かたくて、食べごたえがあって良い。
 いよかんの風味がしたのはよかったです。
 ほんのりいよかんの味がして、素朴でおいしい。
 低カロリーはうれしい！
 噛んだ瞬間のいい香り…
 家庭のお菓子という感じです。
 イヨカンがすごいアクセントでおいしかった。
 噛めば噛むほど味は深まる感じはした。
 いよかんはよく味が出ていると思う。
 イヨカンピールの風味が口の中で広がり、美味しいと思う。愛媛ってかんじはあるので、まあまあ良いとは思う。
 見た目をもっとかわいくしたら良いとおもいます。
 ネーミングはせっかくだから「しまなみ興し」がよいと思う。力づよい、今治らしいお菓子だと思う。
 カンキツの味が口に残って見た目とは違う印象です。
 食感がおもしろかったです。後味が香ばしくて良いと思います。
 たまには買ってもいいかなと思う。
 愛媛としては特産品をアピールできていいと思う。
 歯ごたえがあり甘すぎない味でよいと感じた。
 好きなお菓子です。低カロリーで食物繊維がおおくて最高。いよかんピールがアクセントで良かったです。

美味でした。
イヨカンがよくマッチしていました。

〈消極的・否定的コメント〉

もう少しサクサクしてほしい。
カンキツ風味が少ない気がする。
かたかった。(4名)
おいしくいただきましたが少し固い！？
食感が悪い。歯にくっつく。
見た目もイマイチで味もよくわかりません。
少し固いから一般向きしない。
見た目がお土産にはどうかな？
あまり見た目で食べた〜い！！とは思いませんでした。
かんきつのおいが少しきつい。もっとさくっとしていた方がよい。
いまいちオリジナリティがない。
味はとても良いのですが、型が少し。
バサバサしている。
固いのかと思ったらやわらかくて歯に残る感じがした。
歯にはさまります。
かたすぎ。
固い。特に今治に結びつくお菓子ではなさそう。
少し固い。(4名)
固いのが苦手。オレンジピールを使ったのがとても良いと思います。
固いかな。
いよかんの味が良いが、歯につまる感じが嫌。
味、香ばしさ共に良いと思うのですが、見た目が少し気になります。
カンキツの味がほんのりとしておいしかったが、見た目がいまいちでした。
歯につく。インパクトがない。
かたいので、年配の方には向きにくいと思う。
いよかんピールが苦手なので、好きじゃない。
しけている感じがした。
おこしの軽さが無かった。しけているかんじがした。
いよかんの味もしておいしいが見た目が悪い。
味がいまいち。
食感が中途半端。ピールもマッチしない。
いよかんピールが苦手なので、好きじゃない。
少しかたいのでお年寄りの人は不向きかも。
見た目がもっとインパクトがほしい。
わたしは好きだがかたすぎる、しまなみ興しにしてください。
ちょっと小さいかな？
かたすぎて歯が折れそう。
ちょっとかたい。歯が丈夫じゃないと無理ですね…。おこしだからこんなもんかな。
食感が人それぞれかも。
形を工夫してはと思った。(2名)
食べにくい。
味は好きだが、商品にすると、形をもう少し考えてほしい。
もう少しおしゃれに。
割って食べてもバラバラしないのはいいが、歯にモチモチしすぎ。
見た目に色が少ない。
歯につまりやすいので、それは微妙かも。
味、形にもう一工夫ほしいです。大変素朴な感じです。
色をかんきつ類を想像できるようにしては？
見た目地味だけど、味はいい。かわいくなればお土産にしたいかも。
白さを加えるか残すか工夫できると好ましい。
もう少しさくとした食感があれば良いと思う。
アイデアはいいと思いますが、食感がいまいち。改善の余地があると思います。
もう少し香ばしさがほしい。歯にくっつき残って少し良くない。
食感がいまいち。香りもいまいち。
見た目を少しどうにかするとか、キューブにするとか。味はみかんが強すぎる。
おせんべいとしてはいまいち。もう少しクラッカーのようなやわらかさが出れば甘みとも合うかも。
味に深みがあるけれど食べにくいです。いよかんの香りがとてもよい。かたくてしんどい。
おこしはイメージがかみなりに近すぎるような…

発依頼を受けて試作に取りかかったもので、地域連携事業の一環として2011年9月24日に本学に於いて同会向け技術講習会で発表したものである。その後、特定非営利活動法人・eワーク愛媛が2011年10月28日新居浜市で主催したシンポジオンNIHAMA「B級グルメで元気になろう！東予会議」において、同会メンバーで本学ライフデザイン学科に在籍する別府明美さんが口頭発表している。同日、発表後の試食会にさくら味噌あんパンを出品し、参加者の試食会に供した。この間、学内では実習教材に取り入れ、若年者及び女性の好みを反映した配合に工夫するなど改良を重ね、製菓実習で試験販売している。一連の活動について、後日取材を受け新聞記事として紹介された（毎日新聞、2012年1月11日付）。

考 察

地方により「ボン菓子」あるいは「ドン菓子」と呼ばれる菓子は、穀類の乾燥技術の一つである加圧乾燥法により製造される¹⁰。機密性の高い筒状の釜に穀類等を入れて密閉し、釜ごと回転させながら内部が10気圧（約1MPa）程度になるまで直火で加熱した後、蓋を解放して一気に減圧する。この時、原料中の水分が急激に気化するので体積が爆発的に増加、激しい爆裂音を伴いながら釜から内容物が勢い良くはじけ出す。原料組織は膨張する水蒸気で膨れ、軽石のように多孔質で脆く、そして柔らかくなるので嗜好性が格段に向上する。穀類デンプンの糊化と乾燥が同時にしかも瞬時に起こるこの技術は、Alexander Pierce Anderson（米国）¹¹が1901年に、米の膨化実験中に偶然発見したとされる。彼は後に特許を取得して商品化し、1904年セントルイス万国博覧会でこの装置とパフライスを出展したところたちまち大衆に広まったという¹¹。ちなみに和菓子の最中種やあらは、餅の水分が気化するときの膨張力を利用するもので、原理的には類似している。

最適なパフ化条件は穀類の種類により異なる。原料の水分量、火力の程度、加熱時間、加圧条件など加工業者の技術に依存する部分が大きいという（私信、家田製菓株式会社；愛知県知多郡南知多町）。したがって、穀類やデンプン食品の全てがパフ化できる訳でもないが、パフ加工技術は、玄米や玄麦などの全粒をそのまま加工・利用できる点で、食糧資源の有効利用になるだけでなく、穀類の持つ全ての栄養成分を利用できる点で優れている。特に、穀物の精製（精白）で激減する食物繊維を保全する有効な加工技術といえる。

主食としての米は、精白による食物繊維含有量の減少に加え、米そのものの消費が減少していることから、今日、食物繊維の摂取基準を満たせない原因食品の一つになっている。Burkitt¹²は先進工業国における生活習慣病の増加が精製食品の普及と符号することを最初に指摘し、彼の説が実験的に実証されるに連れ、食物繊維の栄養学的重要性が一般に認識され始めた。身近では、全粒粉で作ったパンや、玄小麦から取り除いたフスマを再び精白粉に戻して作ったブランブレッドが出回っている。また、米については健康を志向する消費者の間で玄米食が普及しているし、最近では発芽玄米が注目されている¹³。未精製穀物の栄養学的優位性は、既に1977年に「アメリカ合衆国上院栄養問題特別調査委員会報告書」（委員長の名前をとって、通称“マクガバン報告書”）で指摘されている。加えて近年、咀嚼の栄養生理学的な効果が次々明らかにされているが¹⁴、未精製食品は咀嚼効果の面でも優れた食品と言える。パフ加工した未精製穀類等、高食物繊維な製菓及び製パンの開発が求められている。

次に食パンと菓子パンの100 g 当たりエネルギー (kcal) を比較した場合、前者が264に対し後者は280で6 %ほど高い。これは菓子パンの油脂含量が2割ほど多いことに由来しているが²、摂取と消費のエネルギーバランス及びトランス脂肪酸の悪影響を考慮すれば、製菓製パン現場では食物繊維の摂取を増やす工夫と同時に、製菓用油脂（主に硬化油）の利用を抑える工夫も求められている。さくら味噌あんは、和製ハーフである桜の葉をみじん切りにしてあんに練り込んであるが、これは風味の付与のみならず、食物繊維の摂取を増やすことも意図している。したがって、漉し餡より粒あんにこれを練り込んだ方が食物繊維の総量は増加するが、白粒あんの入手が課題となっている。生活習慣病予防の観点から、製菓業界においてもヘルシー指向が強まっており、低脂肪・高食物繊維を指向したベジタブルスイーツに興味関心が高まっている^{16, 17}。

おわりに

“しまなみおこし”の創作は、日本商工会議所の補助事業「平成23年度地域力活用新事業∞全国展開プロジェクト」を受けて、今治商工会議所が行った「今治地域特産の農水産物を活用した特産品開発プロジェクト」事業に、商品開発部会の支援機関として著者が参加の機会を得たことに始まる。同部会で持ち寄った試作品が縁で、ムロヤ菓舗（今治市）さんと交流が始まり、同菓舗の谷口健一郎氏には度々ディスカッションに加わっていただきました。ここに、厚くお礼申し上げます。

その後、当該品は2011年10月30日に実施された今治商工会議所主催の「今治スイーツコンテスト」にムロヤ菓舗より出展、市民による一次審査で10作品に選出された。これをベースにムロヤ菓舗さんが開発した「うきしまショコラ」は、四国・今治 Gozzo-la（ごっつおーら）のブランドを表示し、今治明德短期大学地域連携商品として市販されている。

要 旨

裸麦は瀬戸内海沿岸が栽培適地の大麦で、押し麦、米粒麦の他、麦味噌に加工利用されてきた。ここでは、裸麦の利用拡大を目的に製菓製パンへの応用を検討した。具体的には、裸麦をパフ加工した後、これをメレンゲで焼き固めておこし風にした製菓“しまなみおこし”と、麦味噌（商品名：さくら味噌）を練り込んだ白あんが入ったさくら“味噌あんパン”を創作した。さくら味噌あんには、風味付けと食物繊維の強化を目的に桜の葉をみじん切りにして加えた。前者は、2011年「今治スイーツコンテスト」の一次審査で10作品に選出された。後者は学生実習の教材に取り入れ、製造工程、形態等が改良されて学内外で試験販売している。

Naked barley (*Hordeum vulgare* L. var. *nudum* Hook. f.) is well grown in the fields around Setonaikai sea and traditionally processed into malted barley for preparing Mugimiso. To increase consumption of the naked barley that is one of the staples of Ehime prefecture, “Sakura-miso-anpan”, a sort of bun filled with bean paste and “Shimanami-Okoshi” were made as trial products. “Sakura-miso-anpan” was characterized by the filling of white bean paste which contained 2% Sakura-miso (a

sort of Mugimiso) and 4% fines of salted-cherry leaves. “Shimanami-Okoshi” was characterized by the use of puffed grains of naked barley and fines of Iyokan orange peel and by the procedure of preparations. The most characteristic procedure of Shimanami-Okoshi was to form with meringue instead of candy for ordinary Okoshi. Shimanami-Okoshi received the prize in the souvenir sweets contest of Imabari area in 2011. “Sakura-miso-anpan” was improved in design and taste through the practical training by students and sold as a original product of the pastry and bread making course of Imabari Meitoku Junior College from 2011.

参考文献及び資料

- 1 池田勇人：ウィキペディア；
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%B1%A0%E7%94%B0%E5%8B%87%E4%BA%BA>
(2011年1月現在)
- 2 科学技術庁資源調査会：「五訂 食品成分表」，大蔵省印刷局（2000）
- 3 青江誠一郎：大麦の摂取がメタボリックシンドローム関連指標に及ぼす影響，ルミナコイド研究，15：1-11（2011）
- 4 JA 愛媛中央会；<http://www.ehime-chuoukai.or.jp/02ehimeagri/ehimeagri-crop.htm>
(2011年1月現在)
- 5 武田秀敏：サトイモの多面的利用に関する研究，今治明德短期大学紀要第32集 pp21-40，（2008）
- 6 武田秀敏：柑橘類の多面的利用に関する研究，今治明德短期大学紀要第33集 pp13-30，（2009）
- 7 独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 近畿中国四国農業研究センター：日本初の二条裸麦新品種「ユメサキボシ」を開発—裸麦の生産拡大を目指して—，プレスリリース（2009）
- 8 加藤博道，檜作 進，内海 成，鬼頭 誠，山内文男，小倉長雄，中林敏郎：「新農産物利用学」pp139-142，朝倉書店（1990）
- 9 藤巻正生，三浦 洋，大塚謙一，河端俊治：「食料工業」pp59-74，恒星社厚生閣（1985）
- 10 松本 博他：「図解食品加工学」p 174，医歯薬出版（2001）
- 11 Minnesota Inventors Hall of Fame:
<http://www.minnesotainventors.org/inductees/alexander-p-anderson.html>（2012年1月）
- 12 D.P.Burkitt nad H.C.Trowell (eds) "Refined Carbohydrate Foods and Disease, Some Implications of Dietary Fibres" Plenum Press, New York (1975)
- 13 茅原 紘，杉浦友美：近年の GABA 生理機能研究—脳機能改善作用，高血圧作用を中心に—，食品と開発 36; 4-6（2001）
- 14 斎藤 滋：「噛まない子は本当にだめになる」風人社（1988）
- 15 斎藤 滋：「よく噛んで食べる」NHK 出版（2007）
- 16 柿沢安那：「ベジタブルスイーツ」あおば出版（2006）
- 17 松浦 惇，野澤 謙，榎 満：「ベジスイーツ—からだにやさしい洋菓子—」モーリスカンパニー（2008）

（平成24年3月5日受理）

菓子名 しなみおこし ダコワーズ型 1 枚 (25個) 分、裸麦パフ

原材料名	配合量（g）／1班分	配合比（％）	備 考
A：裸麦パフ	50 g	100	裸麦には、丸麦、押し麦、米粒麦とあるが、ここでは米粒麦をパフ加工したものをを用いている。
B：焙煎裸麦粉	30 g	60	
C：卵 白	50 g	100	
D：上白糖	75 g	150	
E：いよかんピール	30 g	60	
合 計	235 g	裸麦パフに対する割合	
	脚注、ダコワーズ型一枚分相当		
[器具・装置等] ・卓上ミキサー ・ダコワーズ型等、成形用の型 ・グラシン紙 ・パテ ・オープン		[製造工程] 1) 卵白を卓上ミキサーボールに入れ、攪拌しながら砂糖を徐々に加えてメレンゲを作る。 2) みじん切りしたいよかんピール、パフ加工した裸麦の全量、焙煎裸麦粉を予めよく混ぜておき、これに（1）を加えてよくなじませる。 3) パテで整形型に（2）を詰めて、詰め終わったら型を静かに持ち上げて外す。 4) コンベクションオープン（FMI 製、CONVOTHERM／OD-6.10P）で160℃ 15分焼成 5) オープンから取り出したら、グラシン紙の下から水を注いで紙を湿らせて剥がれやすくなったら製品をスノコに並べて粗熱をとる。	
[下準備] 1 卵白は予め室温に戻して使用。 2 いよかんピールは、フードプロセッサーで細かくみじん切りにしておく。 3 オープンは、目的の温度まで加熱しておく。 4 天板にグラシン紙を敷き、その上にダコワーズ型等、整形用の型を置く。生地離れを良くするために、霧吹きをしてから生地を詰める。 5 焙煎大麦粉は、押し麦を焙烙 ^{ほうろく} で予め焙煎した後、0.5mmの円孔篩を備えたウィレー型ミルで粉碎したもの。			
[留意点等] 1 デッキオープンで焼く場合、温度設定はコンベクションより10℃くらい高く設定する。			

菓子名 さくら味噌あんパン 中種法、粉総量：500 g（40 g × 20個分）

原材料名	配合量（g） ／1 班分	配合比 （％）	準 備 等
〈パン生地〉 強力粉 350 g 70 薄力粉 150 g 30 砂糖 50 g 10 脱脂粉乳 10 g 2 塩 7.5 g 1.5 ドライイースト 5 g 1 水 300 g 60 全卵 50 g 10 バター 50 g 10 ケシの実 適量 卵白（つや出し用） 適量 〈味噌あん〉 白並あん 700 g 100 水 140 g 20 裏こしさくら味噌 50 g 7 塩抜きしたさくらの葉 35 g 5 塩抜きしたさくらの花 20個			〈パン生地〉 生地は、中種（発酵種）法／用量の7割の子麦粉と水、酵母の全量をミキシングし、これを冷蔵庫（5℃）で一晩熟成させた生地（種）に、残りの小麦粉と水、副材料をミキシング。 〈味噌あん〉 （1）白並あんと水、味噌、予め塩抜きした後みじん切りにしたさくらの葉を鍋に入れて練り直し、火取りあんを作る。 ※生あんを利用する場合、生あんの6割に相当する上白糖を加えて練り上げる。 （2）粗熱を取ったら35 g ずつに分割し、あん玉にしてアルミ角盆に並べておく。 「さくら味噌」について さくら味噌は、今治市玉川町特産（製造元：えひめJA越智）の味噌で、米麴と麦麴が3対7の割合で含む。
〔器具・装置等〕 ・製パン器具一式 ・三角へら ・カミソリ ・はけ（つや出し用）、つや出しスプレー（セパレ等）でも可。 ・あんペラ ・正五角形型（型紙を用意）	〔製造工程〕 【中種ミキシング】低速2分、中速2分、こね上げ温度 25℃ （1）キサーボールに酵母の懸濁水、粉類の順に加える。粉が飛び散らないように1速で回転を始める。（2）中速に変えてミキシング。 【中種発酵】丸くまとめた生地を、フタ付きの発酵容器（予め離型油をスプレー）に入れ、冷蔵庫（5℃）で一晩熟成。25℃、150分の発酵でも可。 【本捏】低速3分→中速4分、油脂添加 低速2分→中速6分、こね上げ温度：28℃。 ※加水量に注意。本捏ねの際、所要量の水を一度に入れるのではなく、予め取り分けておいた調整水で生地の柔らかさを調整する。加水し過ぎると、最終発酵でだれたり、衝撃で潰れたり、窯落ちし易い。 【発酵】30℃、30分 【分割・丸め】40 g／個、個数を確認しておく。 金属スケッパーで分割。表面を滑らかに丸める。 【ベンチタイム】室温で20分、生地が膨れるまで回復を待つ。 室温が25℃以下の場合、発酵室でベンチタイムをとる。 【成形】（1）包あん ベンチ終了後の生地を手の平にのせ、ガス抜きしながら広げて35 gのあん玉を置き生地をすばませてしっかり閉じる。（2）圧偏 大福餅くらの扁平な形にしたら、中央を親指で押しで凹ませる。（3）切込み カミソリで放射状に五本の切り込みを入れ、あんが見えるようにする。（4）整形 切り込んだ端に三角へらの角を当てさくら花形に切れ目を入れる。（5）トッピング 水切りしたさくら花を中心の凹みに置く。 【ホイロ（最終発酵）】38℃、50分 【焼 成】180℃～190℃、上火を効かせ15分～20分 つや出し卵白を塗る。①ハケを強く押し当てると生地の腰折れが起きるので注意。 ②塗り過ぎて天板に垂らさないようにする。		
〔備考〕 塩漬けのさくら花は、予め塩抜きしたら乾いた布巾に並べ、上から乾いた布巾を押し当てて十分水切りしておく。			

一般教育科目「地域文化論（歩き遍路体験学習）」を振り返って

市川ひろみ、桑原拓夫、八塚節也、佐伯羊一、徳永英幸、
原 映子、阿部清子、伊藤敏乃、渡邊陽子、滝口伸一、高井秀和

Essays on “Local Culture Henro Study” : Reviewing 10 years experiences

Hiromi ICHIKAWA, Takuo KUWAHARA, Setsuya YATSUZUKA, Youichi SAEKI,
Hideyuki TOKUNAGA, Eiko HARA, Kiyoko ABE, Tosino ITOU, Youko WATANABE,
Sinichi TAKIGUCHI, Hidekazu TAKAI

星島一夫元学長（故人）の「歩き遍路を教育に取り入れる」という提案に基づき、2001年度から一般教育科目「地域文化論（遍路体験学習）」が開講されました¹⁾。この授業は、学生に、地域文化としての遍路を体験も重視して多角的に学んでもらうという特殊な学習内容であることから、複数の教員が担当してきました。装束製作や公開講座、歩き遍路・お接待・車いす遍路などの実習時に際しては、さらに数名の教職員が加わり、また、多くの学外の方々のご協力を頂きました。歴史、宗教、歩き、道文化、お接待など多様な側面をもつ「お遍路」全てを専門とする人は誰もいません。多くの事を多くの人から学べるこの授業は、教職員にとっても貴重な経験となりました。

本稿は、「地域文化論」に携わった学内外の11名それぞれが、10年間のお遍路授業を振り返り、その思いを文章にしたものです。全国的にみても珍しい体験学習が、若い人たちにとって困難な時代の大学教育にわずかでも資することがあれば、これ以上の幸せはありません。尚、掲載は五十音順にしています。

「歩き遍路に寄せて」

阿部 清子（学生の健康管理を担当した）

本学の「歩き遍路」では主に健康管理面の指導と実施の際のサポートを担当させてもらった。実習は毎年9月中旬に実施されるため、暑さ対策は必須である。特に、熱中症の予防として水分補給や事前の体調管理の指導に重点を置いた。また、普段歩きなれていない学生が多いので、フットケアやマッサージについても実習しながら行った。体力的には自信のある若者達ではあるが、足を痛めてしまうことでやむなく伴走車のお世話になることも多かった。長時間にわたりくつの中が高温多湿状態にあるためマメができやすく、みんな宿に着くと水ぶくれの手当てに時間をとられた。「たかがマメ、されどマメ」である。

私の「歩き遍路」への参加は年度によって異なり、2泊3日の時もあれば、1日だけ車の伴走をした時もある。時々、学生と一緒に歩かせてもらった。暑くて、暑くて汗がタラタラだけど、道端の鮮やかな花々や吹く風に元気をもらった。10分間の休憩中、コンビニの駐車場に座り込んで学生とかわす会話もうれしかった。歩き遍路を共にした学生達は、その後授業などで直接関わることがなくても、廊下で会えば必ず笑顔で挨拶をしてくれた。ありがたいことである。

私の生家は第58番仙遊寺から第59番国分寺への遍路道の途中にあり、子供のころからお遍路さんの姿はよく目にしてきた。その頃のお遍路さんは今のように庶民的なものではなく、何か特別な世界の人のように感じていた。現在、私は今治市大西町に住んでいる。国道196号線を今治方面に車で走ると歩いているお遍路さんに必ず出会う。一人で歩いている方、集団で歩いている方々、ご夫婦で歩いている方、若い女性の方、外国人の方と様々である。四国88か所参りの目的はいろいろあると思うが、昔と比べて我々のより身近な文化となってきたように思う。

今、私は月に1回仲間と共に自動車で四国88か所参りを行っている。冬のお寺は参拝者も少なく、静寂で、冷たい凜とした空気が何ともいえない。「歩き遍路」で回った時のあれこれを思い出しつつ、これからも私のお遍路の旅を続けたいと思う。

「もう一つのお遍路学習」

市川ひろみ（遍路学習や公開講座の企画・運営を担当した）

2001年度から始まった「地域文化論（歩き遍路体験学習）」では、4泊5日の「ながつき遍路」や、車いす遍路体験、足浴などのお接待実習は、毎年、複数の新聞や雑誌、テレビ、ラジオで取り上げられた。学生が地域の方々と触れあいながら成長していく姿を目にするのは、素晴らしい。体験学習というテーマをもった授業であることから、大学生が汗（時には涙も）を流しながら取り組む授業が、社会から注目されたことは、教育を担う一人として大変有り難いことだった。

しかし、「地域文化論」は体験学習だけではない。学生が地域文化としての遍路を学び、関心をもつことができるように、授業時間のうち数回は、学外の札所のご住職や専門家にお話を頂く機会を設けていた。これは、この授業を担当した3名の教員は一般教育担当者であり、それぞれの専門が、体育、経済学、国際関係論であったことに拠る。お遍路文化についての授業をお願いできる方々を、学外に求めることとなった。

初年度は、受講学生のみを対象とするゲスト講師による授業だったが、貴重なお話を地域の皆さんとも共有したいとの願いから、2002年度に「公開講座」を開設した。今治市公報誌他で受講生を募集すると、定員を上回る受講希望者があることも珍しくなく、多い年には、70名ほどの方々が登録されていた。公開講座を開催した2002～2010年度までの9年間に、のべ約360名の方々に参加いただいた。

「月刊へんろ」編集部の方の滝口伸一先生のご紹介のお陰で、遍路にまつわるさまざまな分野の37名の方々に講師をお願いすることができた。歴史学、運動生理学、建築学、栄養学、医学などの研究者の他、札所の住職、お接待グループの方々、車いす利用者など多彩な方々に講義いただいた（別表「地域文化論」公開講座プログラム参照）。1200年続いてきたお遍路は、人々の生活に根づき、かつ、変化し続けている文化である。このように多分野の方々による講座をとおして、お遍路文化の奥深さ、変化の可能性の幅広さを確認することとなった。

公開講座は、発見・出会いの場となった。特に、筆者は、京都出身で四国には何の地縁もなく、中学から大学まではキリスト教精神に基づく教育を受け、国際関係論を専門としている。講師の方々との出会いは、刺激的だった。公開講座のどの話も新鮮で、目を開かれる思いの連続だった。思い出は尽きない。

悲しい記憶もある。2008年11月5日に「私の草の根に生きた遍路道80年」というタイト

ルでお話頂くことになっていた稲葉^{いなば}峯雄^{みねお}今治明德短期大学名誉教授が、その年の夏に急逝された。稲葉先生は、公衆衛生、高齢者福祉活動に全身全霊を傾けてこられた。自宅で開催されていたハンセン病を学ぶ「^{こぶ}瘤の会」定例会でお話をお伺いして、先生がお遍路に強い思い入れをおもちであることを知ったのは、この前年である。さっそく、公開講座の講師をお願いして快諾して頂いたのだが、先生のお遍路への思いを知ることは、かなわなかった。残念でならない。追悼の気持ちを込めて、予定していた11月5日は、稲葉先生を何年にも渡って取材していた、朝日新聞記者の藤井満さんにお話いただいた。

学生たちも、自分たちのお遍路体験や研究について発表した。お遍路さんたちへのアンケート調査や、宿坊の精進料理のカロリー計算、歩き遍路に相応しい献立、地元の札所についての住職から聞き取り調査、中国からの留学生による、チベット巡礼と四国遍路との比較など、学生らしい瑞々しい視点が感じられた。

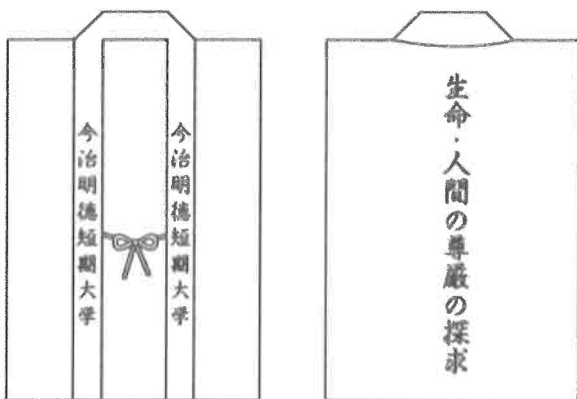
多くの一般受講生の方々は、毎年受講登録をしてくださった。授業の都合上、不規則な開催にもかかわらず、1日も欠かさず受講される方も少なくなかった。受講生から、講師の方々へは時に厳しい質問もあったが、学生の体験・研究発表には、たとえつたない内容であっても、暖かく励まして下さった。私たち担当者は、受講生の方々を受付でお迎えするのが、楽しみだった。受講生の方々の「今年も講座が始まるのを待っていました」との言葉に、支えて頂いた。「お遍路公開講座」は、受講生の方々が熱心に参加してくださったお陰で続けることができた。記して、感謝したい。

「遍路装束作製をおこなって」

伊藤 敏乃（遍路装束の作成を指導した）

星島元学長が立案された地域文化論（歩き遍路教育）の中で、へんろ歩きには学生が自分で作製した装束を身にまとして歩くということを提案され、その制作指導を私が担当することになった。

今日では学生が自分自身の衣服を作製する機会はあまりなく、困難も予想されたが、あえて学生が自分にあった装束を作り上げていくことを重視した。そこには装束を作り上げる過程で学生の歩く意識を高めたいという意図が込められていた。



装束は直線縫いが主であり、中・高の家庭一般の科目においてミシンの技術もすでに学習していることから、当初は抵抗なく作製できると考えていた。しかし装束は着物仕立ての袴纏型であったので、学生には馴染みが少なく、その制作過程はイメージしにくいものであった。さらに個々の学生には技術能力に大きな差があったため、その制作にはかなりの時間を要した。また、指導する

側も20人近くの学生の能力を限られた授業時間内で掌握できにくかったため、初期のころは各々に合った指導の対応に手間取ったが、年々授業回数を重ねるなかで、制作の最初に完成時のイメージをつかませ、作業手順をより細かく提示することにより、能率良く各々

の体型に合わせた装束を完成することが出来るようになった。

自作装束に書く文言は、本学における歩き遍路教育では宗教と一線を画したいという星島学長の意向から、市販されているものとは異なるものとし、前面の襟の部分には「今治明德短期大学」、背中央にはこの授業の命題である「生命・人間の尊厳の探求」を墨書した。こうして苦労の上制作した手作りの装束を着てへんろ歩きをする学生は、「自分の手で作り、自分の足で歩く。」という、あるき遍路の真髓を感じさせ、みな生き生きと誇らしげに見えた。

「地域文化論・歩き遍路体験学習」

桑原 拓夫（2000～2006年の歩きを指導した）

「文化遺産としての四国遍路道の人づくりの道として活用しない手はない。歩き遍路・体験学習を授業カリキュラムに入れます。歩き遍路体験で学生達を鍛えて欲しい。」など。学長星島一夫先生の堅い意志と熱い意気を感じました。「地域文化論」は自分には難しいが「歩く」ことならば自分にも出来ると、授業の担当を決意しました。

2000年は準備と歩き遍路・体験テストを実施し、2001年～2006年は4泊5日の日程で学生達と歩きに歩きました。この間、先生方をはじめ多くの方々が苦労されました。また物心両面でお接待を戴きました。お疲れさまでした。有り難うございました。感謝で一杯です。

生身の人間が約150kmを歩いて移動すると、色々なことがあります。最も心に残ったのは、学生が変わること。4泊5日の歩きで本当に変わるの？ 変わります。一緒に歩いてみて下さい。「同行二人」で歩いて得るものは数えきれません。さらに仲間と集団で体力・気力ギリギリまで追い込んだ歩きの中で見せる人間力は凄いです。

「人づくり」の「きっかけ作り」としての「歩き遍路・体験学習」は今の時代だからこそ泥臭く続けて欲しいものです。

たゆみなき歩み 恐ろし かたつむり （北村西望）

「歩き遍路の思い出」

佐伯 羊一（2005～2011年の歩きを指導した）

平成17年4月より明德短大に奉職し、市川・桑原両先生の下で地域文化論について勉強させていただいた。その年の5月のさつき遍路で第53番円明寺から第54番延命寺、そして明德短大まで歩いたのが、長い距離を歩いた初めての経験だった。自分自身歩くことを甘く見ていたのか、10kmも歩かないうちに足の指の付け根にまめができた。歩くときの靴や靴下、普段歩くことの大切さを実感し、靴を購入して歩くことを始めた。しかし、第37番岩本寺から第39番延光寺までのながつき遍路でも再びまめができ、治療しなければならなかった。これではいけないと思い、1日2万歩を目標に考えて歩き始めた。これを今も実行している。

平成18年度からは計画案も自分で作成しなければいけなくなった。下見のために日曜日を利用して日帰り歩いて歩いていたが、平成21年度からは宿泊をしながら下見をするようにした。すると、夕食時などに全国各地から来ている人たちと話をする機会に恵まれた。

函館から来ていた60歳代女性は、それまで1回1県廻りのツアーに参加していたそうだが、遠く北海道から四国までは交通費がかさむため今回から一人で一気に打ちすることにしたとのことであった。これからも元気な間は88カ所廻りをしたいと言われていたので、きっとまた四国を訪れてくれるだろうと思う。

福岡県から来ていた20歳代後半の女性は、初めての遍路であるのに一人で一気に打ちをすると聞き、大丈夫だろうか心配した。しかし、朝の出発も早すぎず、歩く距離も1日20km程度の予定であると言うのでホッとした。日数は長くかかっても、自分のペースで無事に88カ所廻ることができたであろう。

下見の旅では、全国各地から来た、年齢も10～70歳代と幅広い年代の人たちと交流することができた。学生たちとの歩き遍路はもちろんよい思い出だが、自分で経路を確認しながら、学生と歩くときは違った出会いを経験できた下見の旅もまた私の財産となった。

「明德短大の歩き遍路に同行して」 高井 秀和（歩き遍路に寄り添い、多くの助言を頂いた）

もう10年も前になるが、明德の歩き遍路（焼山寺越え）の取材に出かけたのがその後の明德短大生の歩き遍路に同行するきっかけとなった。

11番藤井寺から12番焼山寺までの13kmは遍路ころがしとは聞いていたが、あれほどにきついとは。一山越えては下り、又登っては下り、更に登るという遍路道。焼山寺への道は人っ子一人通らないような山道、倒れそうになる者、足を引きずるような学生もいる。そのたびに、誰からともなく、頑張ろうと声が掛かり、ときには男性が女性の手を引くなどの光景もしばしば。社会人学生の女性二人（50代・60代）の気力には頭が下がると若者の声、若者の体力を羨ましいとしみじみ語りながらも、「あなたたちと一緒にでなかったらとても歩けなかったよ」と返しながら明るく進む人たち。この集団の雰囲気は、疲労や痛みはあっても、人と人が関わり合う温もりがあって爽やかであった。

その苦痛や励ましや爽やかさに惹かれて、翌年から5年ほど毎年歩き遍路に仲間入りさせてもらった。お陰で様々な出会いや体験をさせて貰ったことに感謝している。

同行して毎年見えたことがある。学生たちは、4泊5日で1日約30kmの山坂ある遍路道を歩くという体験をしてきた。血豆を作り足が引きつり、それでも歩き続けねばならぬ。しかし、そうした肉体的にも精神的にも投げ出したくなるような苦しさを、仲間と共に耐え、助け合い励ましあう体験をしてきた。もちろん、その苦しさに負けそうになる自分の弱さにも気づき、物事を安易に考えていたことを反省する者もいる。一方、耐え抜き歩き抜いたことで、思いもかけなかった自分の内なる可能性に気づき、それが自信となり、その後の言動にも自然に現れてくる者もいる。たった5日間であるが、一緒に歩いているとその変化が次第に見えてくる。しかも苦しい状況に立ち向かう者ほどそうした変化が顕著に表れてくるから不思議である。彼らは、仲間やお接待、或いは支えてくれた全てに感謝する者、自然の厳しさや優しさに気づく者などさまざまである。そして何よりも自分の内なるものを見つめ直している。

何事も一歩を踏み出さなければ進まない。チャレンジすることによって変化は生まれる。明德短大の歩き遍路は自己変革への大きなそして有意義なチャレンジだったと思う。

「歩き遍路の結願によせて」 滝口 伸一（本学客員教授。歩き遍路の広報に尽力頂いた）

平成12年、当時の星島一夫学長（故人）から「歩き遍路を授業に取り入れたい」との相談をいただいた。目指すところは「自立心・忍耐力・連帯感を身につけ、自然との共生、地域文化に関心をもつ人づくり」。

この年の8月、真新しい白装束に身をかため、54番延命寺から仙遊寺間を試験歩行。手

探り状態のまま、翌年からは正規のカリキュラムでスタートしたのだから、市川ひろみ教授はじめ担当した先生方のご苦勞は並大抵のものではなかっただろう。その甲斐あって、今治明德短大の公開講座「四国遍路」は、一般の受講者も詰め掛ける人気講座に発展した。この頃、大学教育の場に四国遍路を取り入れようという動きはまだ希薄であり、5日間の「歩き遍路体験学習」などは、相当に大胆な取り組みであったと思う。

私は「へんろ新聞」の取材を通して、学生たちから数えきれないほどのことを教わった。一片の文章ではとても表現できないが、一言でいえば若者の感性の豊かさ、柔らかさ。遍路後のレポートを読んでいて、胸の熱くなることが度々あった。なかでも多くの学生が感じていたことは“自然の優しさ”で、「落ち葉を踏みしめるような遍路道は、足に優しい」「自然の美しさ、小鳥のさえずりにさえ癒された」という。さらに「仲間がいたから歩ききれた」「自分一人で生きているのではない、と感じた」「お接待をいただき、勇気が湧いてきた。不思議…」^故星島先生の目指していたことを、学生たちは見事に体感しているのではないか。

人と接することが苦手？と思われる学生がいた。廊下ですれ違っても顔を伏せ、隅っこに避けて待つような学生だったが、5日間歩いて一変した。あるとき歩いていると、後ろから「先生！」と呼びとめられた。そして笑顔で「私を覚えていますか？」と話しかけられ、驚いた。

コミュニケーションを上手にとれないのは、自分に自信を持ってないか、人を信用していないからではないかと思う。限界に近い状態の中で友達同士助け合い、歩ききった。見知らぬ人からお接待を受け「人は信頼していい。自分は一人で生きているのではない」と感じたのではないだろうか。いずれにしても忘れられない、嬉しい思い出の一つである。

自分も疲れているはずなのに、友達の足のつぶれたマメの手当てをしたり、マッサージをしてあげたり。ひとり元気そうに振舞っていた学生も忘れられない。8年後に再会したとき、「歩ききったこと、仲間と支えあったことが今も自信になっている」と話してくれた。

平成21年9月、今治明德短大の歩き遍路は88番大窪寺を打ち、結願した。

「感動と感謝の歩き遍路体験学習」

徳永 英幸（歩き遍路学習をサポートした）

人類史上類例のない東日本大震災の勃発。その残像も拭いきれぬ復興への歩みの中、“なでしこジャパン”のFIFA女子ワールドカップでの大々快挙。日本国中が、いや世界が感動の渦に沸いた。ひとは感動する心を持ち合わせている。特に若者たちの感受性には優れたものがある。

昨今、人と人とのかかわり合う能力が衰退しているという。人のコミュニケーション能力は五感を使うことによって相手の気持ち、相手への気配りを知ることができる。パソコンや携帯電話を介したコミュニケーションを日常とする若者たちに、その能力の衰えを危惧する。気づくチャンスをつくる。気づきは感動する心によって生まれる。気づくことによって若者はさらに飛躍的な成長を遂げる。本学前学長の星島一夫先生は熱く、若者の教育を語られ、1200年もの長きに亘り連綿と継承されている四国特有の文化である四国遍路の大学教育への取り込みを発案された。現在、地域文化論「歩き遍路体験学習」として教育カリキュラムに位置づけられ、大学教育本来の目的である人間性豊かな人格の形成を目指している。

学生たちは自ら白装束を縫い歩き遍路への心の準備を重ねてゆく。装束の背に「生命・人間の尊厳の探求」を負い1日約8時間、30数キロの途を唯ひたすらに5日間歩きとおす。体力的にも精神的にも厳しい状況に置かれた中で仲間からの思いやり、地元の方々からのお接待を受け、自然体で他人の心遣いに感謝する心が芽生えてくる。感謝の気持ちは学生たち一人ひとりに力を与えていることを、この数日間の体験学習（歩み）の中で感じとれる。自らを見つめ、そして自らを容認することによって他者との共生を感じる。“人間は一人で生きているのではない”という謙虚な気持ちを抱くようになる。本当に有難いことである。ひとは自ら気づくことにより変わることができる。そういった得がたい体験の歩き遍路といえよう。合掌

「歩き遍路体験学習で得たもの」

原 映子（歩き遍路学習をサポートした）

大学の授業として「歩き遍路」を取り入れるという、全国的に見ても珍しい教育を発案したのが今から11年前、その教育目標は「人を育てること」でした。

今の時代、物質的には有り余るほど豊かな環境であるにもかかわらず、人間関係は希薄で、心は決して豊かとは言えません。私たちは、この授業を通して学生達に、「人間は一人では生きていけないこと」「生命の尊厳や助け合うことの大切さ」を是非体感して欲しいと思ったのです。参加した学生の人数は決して多くはありませんが、一人一人の心に他の科目では得られない強い印象を残したと思っています。

この学習の全体のテーマは、授業発案者である星島元学長が熟考され、「生命・人間の尊厳の探求」と決め、学生自作の装束の背中に墨書して実習に望みました。

この「歩き遍路体験学習」の継続を通して、様々な人との繋がりや、多方面での教育の広がりが生まれました。その広がりは3つに分けられます。

1つ目は学生自身の実体験から得る様々な人間的な成長です。特に共通体験による学生同士や先輩・教員との人間関係の深まりやお接待を下さった方々との心の交流は、学生に自信と感謝の気持ちを持たせたと感じます。

2つ目は接待ボランティアや車椅子サポート活動のように、学生の方から地域の様々な人たちへの能動的な働きかけが生まれたことです。学生は感謝の気持ちを態度で表すことを学びました。

3つ目は「四国歩き遍路ネットワーク」を通じて様々な体験教育が広がったことです。今では多くの大学が色々な形で歩き遍路を教育に取り入れています。

このように「歩き遍路体験学習」は、参加学生の心に忘れ得ぬ思い出を作り、そしてそれは先輩から後輩へ、そして地域へと引き継がれてきました。私も教員としてこの授業への参加を通して体験教育の奥深さを実感し、学生達と感動を共有できたことを嬉しく思っています。歩き遍路の苦しさとしさ、喜びは歩いてみないと分かりません。歩けたことに感謝しています。

「歩き遍路の思い出」

八塚 節也（2001～2005年遍路歩きの伴走指導をした）

四国に生まれ育った者として、四国88カ所巡拝は過去に二巡していましたが昔のモノのない時代や、すぐれた人間性を養う心を定年後の人生に見つめ直したいと思っていたところ「歩き遍路が若者を精神的に自立させることの大切さを考えるチャンスであり、彼等が

将来地域文化の担い手として、地域文化を発展させることがねらいである。」との星島元学長の強い意気込みに共感し、地域文化論（遍路体験学習）のメンバーの一員にサポーターとして、2001年から2005年まで参加しました。

四国88カ所には難所があり、本番に備え事前に下見をすべく60番札所の横峯寺には数回先生方とともに登り、焼山寺には夏の暑い日に空海の地図を頼りに登りました。いずれもきつかったが札所まで登りつめたときの達成感は何ものにも変え難いものがありました。

本番中、台風にも遭わず、大きな事故もなく、ただ難所が何寺もあり、ちょっとしたハプニングもありましたが、地方の方の協力や先生方のお力添えを頂きサポーターの役を無事に果たすことができました。道中、多くの方にお接待を頂きましたが、なかでも佐々奈良雄様、滝口伸一様には親身になって、要所要所で過分なお接待を頂き、限りないご厚情に感謝申し上げます。

一巡目は四国88カ所の寺院の研究で手一杯でしたが、二巡目は地域の文化的遺産の見学、文化的施設にふれる学習の機会をつくられたらと思います。地域文化論（遍路体験学習）の火を消さないで継続されることを希望します。

世界的文化遺産にふれることを次世代の者に継承させていくことの大切さを体験させることの意義を感じていたところ、私ごとですが西宮在住の孫が中学在学中の三年間の夏休み課題である「自学自習」のテーマに四国88カ所遍路巡拝を選んだので、家族と一緒に県内の札所を巡拝し、有意義な日々を過ごすことができました。

歩き遍路体験学習に参加し、座学では見られない学生の優しさ、気配り、頑張り等にふれることができ、私の生涯で貴重な体験をさせていただき有難うございました。

桑原先生・市川先生をはじめ遍路体験学習にご参加くださいました皆様に御礼申し上げます。

「サポートから見た歩き遍路」 渡邊 陽子（2002～2011年遍路歩きの伴走指導をした）

お遍路歩き体験学習に2002年度からサポート担当で参加する事になり、当初は「お遍路」に全く興味も関心もなく、車で同行、引率し、1日約30～45kmの距離、歩けなくなった学生がいれば車に乗せればいっくらいにしか考えていませんでした。

大きなトラブルもなく私の歩き遍路のサポート1年目は終わりましたが、サポートで必要な事や気をつけないといけない事など、これから数年にわたって体験することになりました。足が痛い、怪我で病院に連れて行った事、トイレ探しや休憩場所探しは大変で、個人会社や工場、警察署や消防署など中には個人のお宅に声をかけ借りなければいけなかったり、山の中での遍路道では車での長時間の待機、同じ道を何往復もするなど不審者と思われ職務質問されたりと大変な事に（翌年には「お遍路サポート中」のカードを車に貼りました）また、見通しの甘さで地図では普通の道も獣道、道がないなど・・・そんな大変なサポートも精神的にも体力的にも限界の学生たちが待機している車を見て歩きながら手を振る姿や安心できるという言葉で明日も頑張ってサポートしようと思えました。休憩場所がなく路地の日陰で休んでいると「あがっていきなさい」と家の中にまで招き入れて休憩させてくれた人の心の優しさに胸が熱くなり涙が出そうになったこともありました。

学生達の苦しい顔、辛い顔、涙、笑顔、たくさんの人の思いやりや温かい支援のおかげで八十八カ所を巡り終える事が出来たのだと思います。お遍路を支えてきた人たちや地域

の人々との交流、自然、厳しい体験をみんなで共有し、4泊5日の共同生活を通じて学生達と接した歩き遍路体験学習は良い思い出となりました。

別表「地域文化論」公開講座プログラム

2002	4月24日「遍路の歴史」『へんろ』編集部 滝口 伸一
	5月22日「遍路の心」延命寺住職 池口 照順（延命寺本堂にて）
	6月5日「歩き遍路の風景」建築家 青木 光利
2003	5月8日「遍路の歴史」『へんろ』編集部 滝口 伸一
	5月29日「遍路の心」栄福寺 住職 白川 密成
	7月10日「歩き遍路の心得」舎心山太龍寺お接待会員 佐々 奈良雄
	11月6日「四国霊場の文化財」県立高知女子大学助教授 青木 淳
	11月13日「ゼロ番札所西安を訪ねて」元西安観光ガイド 今治明德短期大学卒業生 韓 君
2004	5月13日「遍路の歴史」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	5月27日「遍路の先輩が語る実用情報と心得」へんろ道保存協会 宮崎 建樹
	6月10日「四国遍路今昔一近世から現代にかけて」泰山寺 住職 大本 弘章（泰山寺本堂にて）
	11月11日「庶民と四国遍路」四国大学文学部教授 大和 武生
	11月25日「遍路人生・中司茂兵衛物語」東庵庵主 喜代吉 榮徳
	12月9日「遍路入るべからず—江戸・明治時代の乞食遍路—」福井大学大学院 Ehlers Maren
2005	4月21日 学生体験・研究発表
	5月12日「遍路の歴史」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	8月4日「運動生理学からみた『歩き』」鳴門教育大学 南 尚隆
	11月10日「遍路・巡礼の図像学—なぜ、いつから白装束か—」愛媛大学 内田 九州男
	11月17日「歩いた後のマッサージ」今治明德短期大学 矢野 茂子
	11月24日「無言の説法者に聴く—仏具に秘められた深い教え—」南光坊 副住職 板脇 俊 匡
	1月12日「外国人から見た遍路」徳島文理大学 Moreton David
2006	4月19日 学生体験・研究発表体験発表
	4月26日「遍路の歴史」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	5月24日「上手に歩くコツ」厚生労働大臣認定健康運動指導士 忠政 啓文
	11月8日「やさしさの道標」バリアフリーお遍路倶楽部代表 木城 香代
	11月22日「遍路宿にみる時代の様相」松山東雲短期大学 犬伏 武彦
	11月29日「なぜ世界遺産か」仙遊寺 住職 小山田 憲正
2007	4月25日 学生体験・研究発表2006年度受講生
	5月2日「愛媛を歩く—遍路の歴史—」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	5月16日「遍路の心」延命寺 住職 池口 照順
	5月23日「お遍路のバリアフリーを考える—ユニバーサルな環境を目指して—」 今治市社会福祉協議会今治市障害者生活支援センター 渡部 雄一郎
	6月27日「遍路札と善根宿」大月町へんろ道保存会員 赤泊太刀踊保存会顧問 西田 忠雄
	11月7日「学生たちと歩いて」元今治明德短期大学「地域文化論」担当者 桑原 拓夫
	11月21日「遍路の作法の変遷」愛媛大学 内田 九州男

2008	4月23日	「四国の遍路の歴史—空海の生涯と高野山—」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	4月30日	「歩き遍路における心身の疲労—スポーツ科学の視点から—」 鳴門教育大学 南 尚隆
	5月14日	「歩き遍路のためのやさしい栄養学」 今治明德短期大学 藤田 豊子
	5月21日	学生体験・研究発表体験発表2007年度受講生
	7月16日	「地域を支える『出逢い・お接待の心』」 トレッキング・ザ・空海あいなん実行委員会 委員長 寿川 忠夫
	11月5日	「ムラの自立と遍路道」 朝日新聞記者 藤井 満
2009	11月26日	「暮らしに活かす密教の智慧—弘法大師の著作から—」 南光坊 副住職 板脇 俊 匡
	4月22日	「お接待の心 1200年」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	5月13日	「お接待の心 —学生参加のお接待実習から見えてきたもの—」 高松短期大学 高塚 順子
	6月3日	学生体験・研究発表2008年度 受講生
	6月24日	「納経帳より見た四国遍路」 香川大学 稲田 道彦
	7月8日	「今治のへんろ道今昔」 泰山寺 住職 大本 弘章
2010	11月11日	「実践歩き遍路の心得」 遍路関連図書案内 今治明德短期大学 佐伯 羊一、藤田 豊子
	12月9日	「道標石を建てた人たち」 遍路研究家 喜代吉 榮徳
	4月28日	「四国遍路の歴史—遍路の元祖衛門三郎の里を行く—」『へんろ』編集部 今治明德短期大学客員教授 滝口 伸一
	5月19日	「歩きの博物誌—歩きの中に、自然を地域を自分を知る—」 愛媛大学 佐伯 修一
	6月2日	学生体験・研究発表2009年度 受講生
	6月16日	「生きる」 ラジオパーソナリティー 藤田 晴彦
	6月30日	「遍路への思い」 東温市史編纂室 高井 秀和
	10月20日	「障害者からみた遍路」 今治市障害者生活支援センター専門相談員 渡部 雄一郎
	11月10日	「インド仏跡を巡って」 野間寺 住職 高木 正純
	12月8日	「私にとって、お遍路さんは、文化の伝道師だった」 「四国へんろ道文化」世界遺産化の会 代表世話人 武田 信之

参考文献

- 1) 市川ひろみ・佐伯羊一・原 映子・徳永英幸・阿部清子・渡邊陽子・岡田ゆず：
一般教育科目「地域文化論（歩き遍路体験学習）」授業報告—結願までの道のり—：
(2011) 今治明德短期大学研究紀要 34 47～61

(平成24年2月6日受理)

報告・資料

開かれた図書館活動 —小さな短期大学図書館の挑戦—

土 岐 敦 子

事例報告

今治青年会議所と共に歩み開催した『全国高校心の絵本選手権』

はじめに

『全国高校心の絵本選手権』とは、今治青年会議所が2003年から青少年（高校生）の心の想いを引き出す手段として絵本に着目し、立ち上げた大会である。絵本を選定した理由は「絵本とは、誰にでもわかる深い言葉（愛情・感謝等）を子どもにでもわかりやすく絵と言葉で表現するもの」と、今治市出身の絵本作家 長野ヒデ子先生の言葉にある通り、これが世代を超えた想いを伝える最高の手段と考えたからである。

発表スタイルは、高校生がオリジナルの絵本を自らの朗読・音楽・スクリーン映像により、見る・聞く・感じるの3つの感性で競うというもので、特異性に富む大会といえる。

2003年～2010年の全8回の全国大会開催のうち、2008年～2010年の3大会を今治明德短期大学を会場とし、本学が共催してきた。とりわけ本学のような小さな短期大学（学生数300名程度）が、今治青年会議所と共に歩み開催したこの「全国高校心の絵本選手権」を参考事例にしながら、各短期大学の図書館力の向上のためには地域組織とどのような連携が可能・有意義であるかについて述べてみたい。

なお、この事例報告は「2011年度私立短期大学中国四国地区協議会研修会」において、今治青年会議所からの視点（2010年度今治青年会議所理事長 渡辺俊氏）と本学からの視点で共同発表したものを、纏め補足修正したものである。

1. 『全国高校心の絵本選手権』 今治明德短期大学との共催の経緯

2003年（第1回）～2007年（第5回）までの観客数は平均500名程度で、今治市営の各文化ホールにて開催されていた。第5回を機に今治青年会議所メンバー（以下、今治JC）は大会見直しをかけ、予選とWEB審査・コンサートなどとの同時開催を試みた。マスコミ各社・今治市役所・幼稚園関係者・地元NPO団体を交え会議を重ねた結果、拠点づくりと他団体との連携の強化が課題としてあげられた。

中期ビジョンの策定内容を踏まえ、地元唯一の短期大学であり、絵本という部分に連動する附属図書館・幼児教育学科が設置されている本学に、2007年11月に開催場所の依頼があった。本学で大会開催にむけて学生ボランティアスタッフを募集したところ、当初の確保は10名を数えた。

学生スタッフの仕事内容は、会場設営・大会当日の案内・受付・駐車場整備など、あくまでも今治青年会議所メンバーの補佐のつもりであった。

1. 1 今治青年会議所メンバーと学生スタッフによる会議内容

- ①今治 JC のねらいは、高校生により年齢の近い学生スタッフの意見（運営方法・感性など）が欲しい。
- ②学生スタッフには大会当日の補佐だけでなく、企画の段階から参加してもらい、今治 JC との共同作業として意欲的に参加してもらう。
- ③当日の大会だけでなく、今治明德短期大学（以下、明短）の特色をアピールするイベントを同時開催してはどうか。

以上の事を踏まえて、大人から子供まで楽しめるように『心の絵本選手権』とともに、絵本に関連するイベント『明短えほんフェスタ』を学科・コース別に企画・運営し、集客アップをねらうことが概ね決定した。（2008年3月）

問題点

- ①学科・コース別にイベントを開催するには、全学を巻き込む取組みの体制が必要となる。
- ②当時の明短は、イベントは学生祭のみの開催で、学科・コースの連携体制は無い。その様な状態でどのようにまとめて開催できるのか。
- ③予算はゼロ円である。

問題点の解決方法

- ①理事会・教授会にて学生主導のイベント『明短えほんフェスタ』の説明・了承を得る。
- ②図書館は、学科・コースに縛られない立場から、教職員一人一人に説明をして、学科・コースの連携体制の理解・協力を求める。
- ③学科・コース別に特色を生かしたブースを開設する。
- ④学生スタッフ10名は一般学生を統括する立場とする。
- ⑤各ブースは一般学生（約300名）に協力・運営してもらう。
- ⑥予算ゼロ円なので、手作り感溢れるブースにして、教員と学生によるマンパワーで乗り切る。
- ⑦今治 JC・学生スタッフ・図書館は、細部まで意見交換を重ねる。

1. 2 『心の絵本選手権』・『明短えほんフェスタ』を今治 JC と共催することのねらい

- ①絵本文化を介して、明短生が地域社会（今治 JC・近隣の保育所幼稚園・マスメディアなど）と出会い、交流を深める事ができるのではないかと。
- ②絵本の創作活動・絵本文化を図書館が推進できるのではないかと。
- ③絵本の啓発事業を、図書館としてだけでなく、学生自身が共に企画・体験できる。
- ④地域貢献し、明短の活動を公開する事により、短大並びに図書館の PR になるのではないかと。

2. 2008年『第6回全国高校心の絵本選手権』・『明短えほんフェスタ』同時開催（10月4日）

次のようなコーナーで開催した。

〈絵本関連コーナー〉

～今治市内の保育所・幼稚園～ 今治市内の子ども達の想像画展

～幼児教育学科～ 学生手作り絵本の展示、絵本カフェ、エプロンシアター、絵本・紙芝居の読み聞かせ

- ～文化コミュニケーションコース～ 中国・世界の絵本展示
- ～茶道部～ お茶会（絵本にちなんだ趣向）
- 〈サブイベントコーナー〉
- ～幼児教育学科～ ミニ SL 乗車
- ～食物栄養コース～ 郷土料理（おもてなし膳）の販売
- ～介護福祉コース～ 車椅子体験
- ～文化コミュニケーションコース～ 留学生の生活写真パネル展
- ～全コース～ 歩き遍路写真パネル展

2. 1 PR 活動

- ①テレビ愛媛・南海放送・FM ラジオなどマスコミ各社に向けて活動。今治 JC と学生が番組に出演。
- ②地域のショッピングセンターなどでのビラ配りと説明。
- ③しまなみ海道10周年記念イベント（愛しまなみ博）など、他イベントにも積極的に協力。学生手作り絵本の読み聞かせの機会を得られた。



写真1 ～FM ラジオ局にてPR～

2. 2 2008年・2009年大会における成果と考察

- ①イベント開催における今治 JC の活動ノウハウやマインドを学生達は身近に知る事ができた。
- ②予算ゼロ円を学生達のアイデアと手作り感満載のマンパワーで乗り切る事ができた。
- ③今治 JC と共に開催した結果、集客数は相乗効果を得られた。
2008年 1,070人・2009年 1,100人
- ④明短生の「手作り絵本」という新しい授業の取り組みを導入できた。
- ⑤「手作り絵本」を学外で学生自ら読み聞かせをする機会を得られて、学生の自信につながった。
- ⑥今治市内幼稚園・保育園児の「子ども達の想像画展」の開催により、子どもから高齢者まで幅広い年齢層での参加は、活気にあふれていた。
- ⑦幼児教育学科・食物栄養コース・介護福祉コース・文化コミュニケーションコース・茶道部



写真2 ～「心の絵本選手権」大会模様～



写真3 ～絵本作家 長野ヒデコ先生の指導～

など『明短えほんフェスタ』のイベントで、短大の特色や取り組みを学外に発信することができた。

- ⑧学生達のボランティア精神溢れる活動により、明短のイメージアップにつながった。
- ⑨南海放送・テレビ愛媛・NHK・愛媛新聞社・今治 CATV・FM 愛媛・今治ラジオバリバリ等、多くのメディアに取り上げられ、明短のPRにつながった。
- ⑩読書啓発活動の一環で、ラジオパーソナリティとして番組をつくる際に、学生をゲスト出演させ大会をPRする事ができた。
- ⑪近隣の専門学校による絵本配布や展示、地元の諸団体による「しまなみ写真展」、「今治キルトマップ」の展示、「フリーマーケット」など、学外からの協力が得られた。

3. 2010年大会について

- ①『心の絵本選手権』・『学生祭』・『今治市児童館合同事業子育てコラボ！わくわく大フェスタ』この3大イベントを同日開催することになり、今治 JC ・明短学友会・今治市児童館が当初から企画に関わり、会議を重ねて連携し、多方面にPR活動をおこなった。
- ②今治 JC 主催「わんぱくキッズ」(2010年8月30日～8月31日)では、小学生88名と大島「島四国巡り」に明短生が同行し、PR活動をした。
- ③ラジオ出演によるPR活動をした。
- ④今治 JC は、新聞折り込みによるPR活動をした。



写真4 ～わんぱくキッズ～

3.1 2010年大会における成果と考察

- ①台風14号の悪天候にもかかわらず、2008年・2009年を上回る来場者となった。
- ②『心の絵本選手権』・『学生祭』・『今治市児童館子育てコラボ！わくわく大フェスタ』と、主催の違うイベントを3本柱とした。集客を狙う事による混乱が予想されたが、スムーズに開催された。

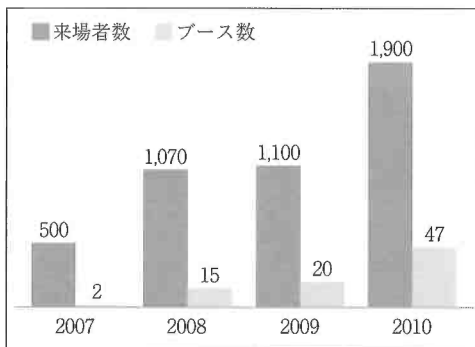


図1 来場者数とイベントブース数



写真5 ～今治市児童館子育てコラボ！わくわく大フェスタ～

- ③『心の絵本選手権』の応募作品のレベルが全体的に高くなり、高校生の演出と工夫もたくさんみられた。
- ④「子ども達の想像画展」の応募数186作品中、上位11作品を大会当日に表彰した。
- ⑤ 明短生による「人形劇」を大会会場内のステージで行うことにより、2009年（図工室にて上演）よりオリジナル性の高い台本・脚本・手作りの人形や舞台装置・備品等がレベルアップした。その結果、学生の表現力と観客との一体感により、人形に命を吹き込む事ができ、感動を誘った。



写真6 ～「子ども達の想像画展」表彰式～

- ⑥「学生祭」と同日開催により、学生一人一人の士気が上がり、学生が自分達の祭りとして楽しみながら大会を盛り上げることができた。

〈学生スタッフの感想〉

- ①最初は何一つ分からない事だらけだったが、今治 JC と週1回のミーティングを約1年かけ、手探り状態でイベントの一つ一つを考えた。全国から選抜された高校生がわが明短に来てくれるので、短大紹介の意味をこめて学科・コース別に催しを開催でき、大盛況に終わったことが何よりも嬉しかった。(2008年 N君)
- ②正直ものすごく気をつかったし、学外実習などのスケジュールにも追われ、肉体的にも精神的にもボロボロな状態だったが、自分達学生にも大きなイベントができるんだという自信がついた。社会にでても臆することなく、何でもやってみようと思った。(2009年 Kさん)
- ③「心の絵本選手権」・「学生祭」・「今治市児童館子育てコラボ！わくわく大フェスタ」の同日開催という初めての試みで、全てが1からのスタートで何も分からず不安だったが、メンバーと何度も何度も話し合い試行錯誤しながら、一歩ずつ前に進めた。(2010年 Yさん)
- ④台風という悪天候に見舞われたが、スタッフ全員が成功させたい一心で協力しあい、大成功につながった。(2010年 K君)
- ⑤高校生の熱い想いを表現する「心の絵本選手権」を後方支援する事で、自分達も絵本や人形劇で想いを表現する機会を得られた。(2010年 M君)

〈審査員・来場者の感想〉アンケート調査結果より抜粋

- ①「子ども達の想像画展」は、楽しい気分と共に一生懸命に描いた事が伝わってきてとても良い企画だった。
- ②運動場には、幼児から高校生・短大生・お父さん・お母さん・お爺ちゃん・お婆ちゃんが集まり、老若男女が楽しめるコーナーがあって活気に溢れていた。
- ③食物栄養コースの「おもてなし膳」は、郷土料理の良さを再確認できた。

- ④図工室の壁画は、歴代の学生達の手描きによるもので、とても温かい雰囲気楽しく観させてもらった。
- ⑤青少年育成事業だけでなく、幼児から大人までの育成事業として成功していたと思う。
- ⑥初めて明短に来たが、学生の手作り感とボランティア精神が伝わってきて、過去の大会会場よりも楽しく過ごせた。
- ⑦短大生の「手作り人形劇」は、感動して涙がでそうになった。他のイベントでも是非上演してほしい。
- ⑧高校生のみずみずしい感性を短大生・今治 JC の皆さんが盛り上げて、文化的な事業が今治から発信できて素晴らしいイベントだと思う。

〈今治 JC の感想 渡辺俊氏〉

- ①第5回大会までの観客数は500名程度だったが、明短で開催した事により、悲願の1,000名を超える事ができた。
- ②明短・地元行政・多くのボランティア団体が結びつく事で、連携共同運動が高まり、『心の絵本選手権』だけでなく、他のイベントでも協力関係が活かされた。
- ③元来、閉鎖的だと思われていた学校図書館が、『心の絵本選手権』を機に、学外の諸団体と共同事業を行うための学内のパイプ役となり、活動範囲がひとつ広がったように思われる。図書館とは、知識・情報を提供する場所である。しかし、利用者がその知識・情報を活かして知恵にかえ、行動に移して初めて図書館の役割は果たされる。大会を通じて利用者（学生）は、その行動に移せていたのではないか。
- ④『第7回心の絵本選手権』の大会模様を日本青年会議所の褒章申請を行った結果、全国706団体の地区青年会議所の中から、日本青年会議所会頭特別賞を受賞した。評価の大きなポイントは、大会と同時開催の『明短えほんフェスタ』で、それぞれの学科・コースが『心の絵本選手権』に呼応した心を重視する企画案を具現化して共催した点であった。大会主役の高校生の魅力を最大限に活かし、観客も楽しめたのは、明短と共催したからである。全国の青年会議所は、青少年育成事業の取り組みのために、手を結ぶべき相手（教育関係並びに諸団体）を探している。今回の事例を基に、さらなる連携事業を模索してほしい。

4. 『心の絵本選手権』とともに歩んだことの成果

①学生力の向上

- i 図書館が絵本文化を介して地域組織と共同事業を行う事で、学生は学びの姿勢に加えて社会貢献する体験ができ、個々の自信につながった。地域に息づく文化が情報となり学生の行動力となった。
- ii 幼児教育学科の授業（手作り絵本の製作・発表）に結びついた。
- iii 介護福祉コースの授業（手作り大型紙芝居の製作・発表）に結びついた。

②図書館力の向上

～図書館が新たに担った役割～

- i 学内の学科・コースを超えた立場から、その相互連携のためのコーディネート
- ii 学友会と今治 JC とのコネクター

- iii 学生の役割の振り分けと指導
- iv 地域組織との交流促進
 - ・種々の地域子育て支援サークルとの交流
 - ・児童館・市内保育園・幼稚園との交流
 - ・今治市立図書館にて「お楽しみ会」を開催
 - ・司書がFM ラジオ局でパーソナリティをしている読書啓発番組の中で、学生をゲストに招き絵本の啓発活動を行う。



写真7 ～FM ラジオ番組～

5. 2011年度 図書館の地域交流活動

- ①「バリバリものづくりおもしろフェスタ2011」に参加（2011年7月28日）
学生手作り絵本・かるた・紙芝居の展示と製作をした。
- ②「今治おんまくまつり」に学生がボランティア参加した。（2011年8月7日）
- ③今治市立図書館にて「お楽しみ会」を隔月開催
- ④FM ラジオ番組に毎週1回出演し、読書啓発のための番組を企画・構成
- ⑤「今治市民がともしつくるまちづくり」今治市主催の委員会に、司書が出席して意見交換（2011年6月）
- ⑥「国際理解講演会」を開催（2011年10月29日）
愛媛県海外協会・今治市・明短の共同事業
 - ・城戸幹氏講演会
 - ・留学生日本語スピーチ大会
- ⑦『児童館子育てコラボわくわくフェスタ』の実施（2011年10月30日）
 - ・一日親子図書館（子どもが主役）



写真8 ～バリバリものづくりおもしろフェスタ～

6. これからの図書館活動の課題・展望

- ①絵本文化の蓄積と活用
 - i 今治 JC と共催した事を機に『心の絵本選手権』の第1回から第8回までの入選作品を収集し、明短図書館に展示し閲覧できるようにする。但し作品は全てCD-ROM化されているので、利用者の誰もが閲覧できるように、紙媒体にして資料化し展示する必要がある。
 - ii 「学生手作り絵本」・「学生手作り紙芝居」の作品の収集と展示。『心の絵本選手権』を機に、各学科で新しい形の授業の導入がされ、学生オリジナルの作品が製作された。その作品を展示し、利用者の閲覧に供する。



写真9 ～一日親子図書館～

②新しい知識・新しい文化に取り組み、創造性豊かな図書館を構築する。

- i 一般流通していない分野の絵本・紙芝居を図書館自ら製作する。
- ii 行政・市民・地域団体が共同で取り組む「新しい今治みなと再生機構」に、地元の短期大学図書館として参加し、2014年の新みなと完成にむけて意見交換・交流していく。

おわりに

～さらなる図書館力の向上を目指して～

短期大学図書館は「教育情報の提供」がその役割である（短期大学設置基準）が、利用者がその情報を「力」にできてはじめて提供に意味がある。一般に図書館（ないしは情報コモンズ）には情報の三つの出会い一本との・仲間との・地域組織との一があると言われる今日、地方にある小さな今治明德短期大学附属図書館が地域組織との出会いによって学生達が情報を力に換えていくことを願い、地域との連携を新たな図書館の機能と位置付けたい。（本学図書館長 森四郎氏の言葉引用）

短期大学図書館は、今や単館だけで情報を活用していくには限界がある。学生と地域社会のための知識の創造基盤を成す組織として、常に情報蓄積・情報発信をし、「知識」「文化」「情報」「行動力」の循環に積極的に参画する。

また、地域住民の多様な生涯学習活動を支援していく事も必須である。知識の創出ネットワークとして地域住民・地域組織と交流し、共に成長する相互教育の場として、扱われるテーマに応じて図書館の協力関係と役割分担を明確にし、予算や人材を効果的に活用し、利用者のサービスに努めたい。

また、他短期大学図書館との連携を一層強化するにあたって、例えば、各図書館の個性（特色）を活かした合同イベントを開催したり、各図書館のお宝を巡回図書館として提供しあい、図書館並びに他の地域社会との交流を深める事も夢ではないだろう。

以上、小さな短期大学図書館が今治 JC と共に『心の絵本選手権』を3年間開催した事により、図書館力並びに学生力の向上に一定の成果をあげた事を、ひとつの実績として事例報告とする。

今後もさらなる図書館の扉を開いていきたい。

編集委員

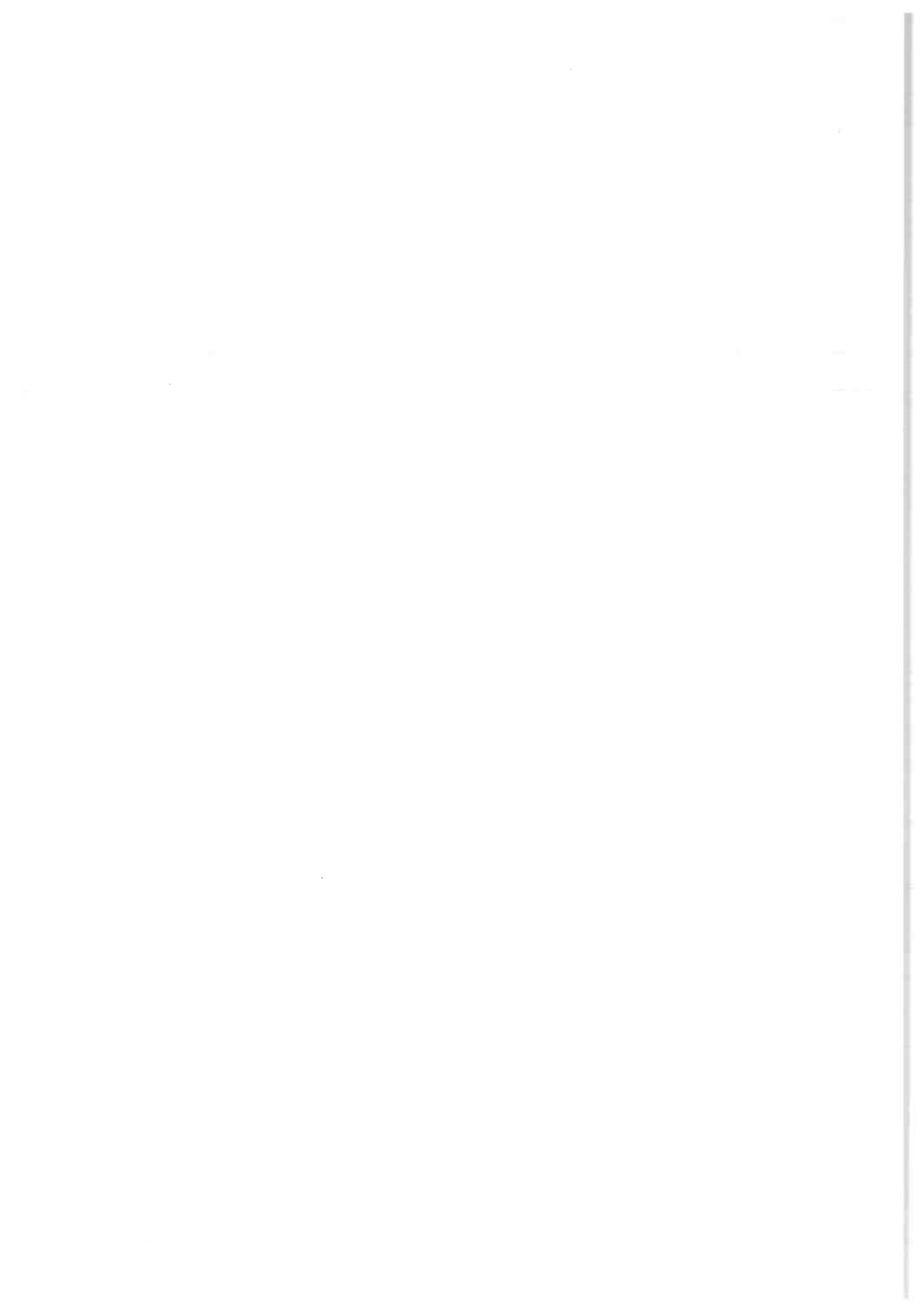
西 本 修 文
土 岐 敦 子

執筆者紹介（執筆順）

河 内 康 文
武 田 秀 敏
市 川 ひろみ
桑 原 拓 夫
八 塚 節 也
佐 伯 羊 一
徳 永 英 幸子
原 映 子
阿 部 清 子
伊 藤 敏 乃子
渡 邊 陽 子
滝 口 伸 一
高 井 秀 和
土 岐 敦 子

平成24年 3 月25日 印刷
平成24年 3 月31日 発行

編集発行者 今 治 明 徳 短 期 大 学
今 治 市 矢 田 甲 6 8 8
印 刷 所 原 印 刷 株 式 会 社
今 治 市 喜 田 村 1 - 2 - 1



REPORTS OF RESEARCH

IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE

NO.35

CONTENTS

The concept of adult education in care workers training college	Yasufumi KOUCHI.....	1
A Creative Application of Naked Barley to Sweets	Hidetoshi TAKEDA.....	11
Essays on “Local Culture Henro Study” : Reviewing 10 years experiencesHiromi ICHIKAWA, Takuo KUWAHARA, Setsuya YATSUZUKA, Youichi SAEKI, Hideyuki TOKUNAGA, Eiko HARA, Kiyoko ABE, Tosino ITOU, Youko WATANABE, Sinichi TAKIGUCHI, Hidekazu TAKAI.....		21
Reports and Materials/ An Activity Opened to the Community by Our Junior College Library: a Challenge to Hold “National Highschool Kokorono-eonChampionship” with JCI Imabari	Atsuko TOKI.....	31

March 2012

IMABARI MEITOKU JUNIOR COLLEGE